

紙、下棚梨地蒔絵の硯箱、奉書六枚屏風松に藤、松に鳶、光信筆沈引の花鳥六枚折、永徳筆同許由巢父、石公張良同筆、真咲筆浦嶋の巻物、言書き光廣卿、光悦筆歌の巻物一軸、雅楽之介鯉の瀧登り一幅、蛇足筆範良の立物、松花堂筆寒山拾得、虎溪三笑二幅、宗旦作の茶杓筒入り一本見物申し候。さて次の間に小座これあり、床に焼物の花入れ掛け候てれんぎよう長く、根に白椿一輪入れ候。薄茶を倅宗次郎立て候、段々馳走に及び候て四つ時分夜入り候て罷帰り候。直ちに堀氏へ一刻咄申し候。

廿六日 晴天 暖気

今朝一刻米良氏旅宿へ参り候。追付絵書所へ罷出候て終日相勤め候。藤右衛門殿入来、池之坊より門弟免しの書付取られ候由にて一見申し候。明日藤右衛門殿ここ元発足の筈候故、未開紅軒端の梅小枝箱に入れ候て御国元へ遣わし候。朝の間井筒屋傳兵衛、吉祥院、並河長兵衛入来にて候。中島利兵衛にも逢い申し候、かの方へ昨日の礼状遣わし申し候。

廿七日 晴天 暖気

今日御屏風絵八つ前迄相掛かり候。兼約により並河長兵衛庭前梅花盛りの由にて見物として参り候、同伴富田清六殿、元春、権八にて候。米良藤右衛門殿今日出京に付き一刻暇乞いに大津屋へ参り候。左候てみなみな同道にて並河へ見廻り候て梅見物申し候、段々馳走に及び候。昔日南泉院へ下られ候随縁房当日捨戒にて、中陸叟と申し候て長兵衛近所へ居られ候。申し遣わし候て見舞われ閑話を得候。濃茶、薄茶、菓子持参にて点前にて振る舞われ候、二十二年目に逢い候。重ねて茶興催すべき由約束致し置き候。九つ時分皆々同道にて罷帰り候。

廿八日 晴天 午後風雨 (欠落、市美本にあり)

今朝御屋敷中礼儀申し達し候て、直ちに絵書所へ罷出候て終日相勤め候。

暮れ時分権八同道にて志賀武兵衛殿書法弟子菱屋四郎兵衛方へ参り候て馳走に及び候、九つ時分罷帰り候。かの方において琴、三味線承り候て延年申し候、志賀氏は跡に居られ候。四郎兵衛中々面白き人にて候。富士山布袋の三幅対絵約束申し置き候。

廿九日 曇天 餘寒風甚

終日御屏風絵に取り掛かり候。朝宿屋次右衛門入り。かねて土佐方、霧沢方へこの節の御屏風、元春、権八見候事頼み置き候処両方へ申し置き候処、今日然るべき由申し来たり候由兩人同道にて参り候。絵書所へ志賀氏入来にて咄申し候、帰り候に堀氏風引き故一刻見廻申し候。南泉院かの方にて御意を得候。明朝日権僧正の御礼へ参内の筈に候由、かつまた今朝村井右膳殿より手紙到来。先日院御所御屏風の宿金青両品返上申し候処相請け取られ候由申し来たり候。今昼菱屋四郎兵衛見舞いにて約束の紙持参申し置き候。夜入り富田氏この方へ入来候て咄申し候。

三月朔日 晴天

今朝御屋敷中礼儀申し入れ候て直ちに絵書所へ罷出候。終日相掛かり候。昼の内富田氏方へ七條より一水房見舞いにて絵書所へ出られ候て閑談を得候。藤本一刻入来。追付道昌庵子息省順見廻にて候。一水房咄に読み人知らず、

朝 起き出て物にまぎれぬ朝の心や元の心なるらん

二日 晴天 暖気

今日終日御屏風絵に取り掛かり候。朝罷出候節南泉院へ参内の祝儀に参り候。昼暫し靈空比丘の弟子古雲並びに叔山西堂の正教房参られ候由にて、絵見物にて近付きに罷なり候。追付妙心寺全首座入来候。夜入り齒痛散々。

三日 曇天 午後属雨

今朝御屋敷中祝儀申し入れ候て絵書所へ一刻罷出相勤め候。追付罷帰り候て、かねて南泉院へ頼み置き候て、平松殿御父子様御絵讀み物の儀頼み奉り候処、御筆を染めなされ下され候由にて吉祥院使いにて下され候。喜撰法師の絵にて候、讀万葉書きに我庵の歌にて候、

夜春雨

咲き出でむ花に思えば淋しさも心なぐさむ夜半の春雨

四日 雨天

今朝山下雲洞見舞いにて齒の療治あんま頼み候。追付南泉院より今日は前僧正谷山殿一回忌に候間、斎御振る舞いこれあるべき由にて参り候、仙香一袋持参申し候。相済み候て万右衛門殿へ一刻見舞い候て直ちに絵書所へ罷出終日相勤め候。夜入り候て山下雲洞見舞いにてあんま頼み存じ候て齒の療治申し候。

五日 晴天

今日終日御屏風の絵に相掛かり候。昼の間一刻平松殿雜掌石黒主膳御屏風絵拜見に参られ候、私事は出合い申さず候、堀氏出合いにて候。追付晚付き候て中島利兵衛、堀氏へ見舞い候て私へ逢い申したき由申し候に付、かの方へ直ちに参り候えば兼て頼み置き候御即位の図式写し調え候由にて持参申し候。暫し咄候て利兵衛事は帰り候。夜入り候て道昌庵私宅へ入来、ゆるゆる咄申し候。中御門殿御筆御会の写し持参給い候、四つ前帰られ候。先日建仁寺にて案内の出家衆穆首座は承順の二男にて候由咄にて候。

六日 晴天

今日終日御屏風絵に取掛かり候て金花鳥絵残らず相済み候。昼の内藤本

彦右衛門絵書所へ入来、兼て桜井三位殿御筆にて茶湯一枚起請頼み奉り置き候処、御筆染められ下され候由にて落掌仕り候。かつまた御頼みの山水の絵の儀も仰せ下され候。少々隙候わば御咄に参上仕り候様にと仰せ下され候。追付私宅へ井筒屋傳兵衛来たり候由申し聞き候故一刻罷帰り候。山下雲洞も一刻入来候。やがて罷出候て御屏風相仕舞い、直ちに堀氏へ茶振る舞いに付きて参り候、元春事も同前参り候。庭前の牡丹花含み出候故掃除これあり見物申し候。今晚来木場源五兵衛殿大坂へ下りに付きて御国元へ状頼み遣わし候。夜入り候て堀万右衛門殿出られ候、増田傳治呼び候て謡馳走申し候。

七日 終日雨降

今日院御所金花鳥御屏風絵成就致し候。村井右膳殿へ手紙を以て御指図次第差し上げ申すべき旨申し遣わし候処、明八日五つ頃近衛様へ持参仕るべく候。参内仕り候て差し上げ候儀は、九日十日の間御指図遊ばさるべき旨申し来たり候。今日成就に付きて堀万右衛門殿より祝せられ候由にて料理給い候、富田氏、押川六左衛門殿、元春、権八にて候。見物に佐々木氏、川元氏、能勢五郎兵衛殿にて候。

八日 半晴

今朝五つ過ぎ院御所御屏風近衛様へ持参仕り候て、村井氏を以て差し上げ候処御覽遊ばされ、別けて見事に出来致し候、定めて天覧に備え候ても御褒美これあるべき旨御誼の由承知仕り候。参内仕り候て差し上げ候儀は十日よろしかるべく思し召し上げられ候。明九日は日がら宜しからざる旨、これまた御誼の由承知仕り候、ありがたく存じ奉り候由御礼申し上げ候。さてこのたび右衛門様へ殿下御姫君御結納に付き、昨日は二条百目御目付土屋長三郎殿御使者にて御出、公方様御使者土岐丹後守様

御出御祝にて、今日は御一門様その外公家衆仰せ入れられ候て、御祝の筈にて御はやしこれある筈の由、別けて御取り込みと相見え候。然りながら御庭の桜盛りにて候間少し見物仕るべき旨仰せ付けられ、右膳殿案内にて拝見仕り候て驚目仕り候。糸桜、彼岸桜の木多く候て御庭は大かた花の山にて候。御座敷の粧さて感心仕り候。加治掃部殿、木村内膳殿御座敷へ居られ候て逢い申し候。権之頭殿も参り候由聞かせられ候て暫し閑談を得候、追付退出仕り候。直ちに小川の本法寺へ参り候て長谷川等伯書き候橋弁慶見申し候、牛若殿見事にて候。帰路藤本彦右衛門殿へ見舞い候て茶漬下され候てゆるゆる咄候て罷帰り候に、中島利兵衛へこの間の礼に一刻門迄見舞い候て申し置き候処、在宿申し候間平に立ち寄り候えと人遣わし候故一刻入り候て咄申し候。妙法院禿怒親王御歌これあり候、位山と申す益石見せ申し候。石の銘は石川丈山翁石に朱漆にて六々位山、この如くこれあり候。左候て罷帰り権八同道にて靈山国阿弥伊勢へ参詣申し候て直に清水観音へ参詣申し候。帰路松原通り茶店へ元春に逢い候故待合に入り候処蛙の初声を聞きて、

いつしかと霞に暮るる山元の水の蛙のすだく初声

罷立ち候て直ちに因幡葉師へ参詣申し候、おびただしく人多く候て賑やかなる事にて候。群衆仕り候故見廻り候て追付罷帰り候。

三月九日 晴天 暖気

今朝並河長兵衛見舞い候、御国元町人沙綾払いに上がり候、徳田伊兵衛見舞い候。追付絵書所へ罷出候、紙地共どうさ地、権八引き申し候。相仕舞い候て川元市左衛門殿同道にて、大仏馬町にこれあり候次信、忠信の石塔に参詣申し候。妙法院様御門外罷通り候て暫し知積院門前より大仏に出候て、建仁寺前罷通り四条に出候時、権八事は五条坂焼物求めに

参り候て帰り候に逢い候て、列れ立ち四条筋参り候て月精和泉弥次兵衛宅へ川元氏立ち寄り申すべき由申され候て参り候、馳走申し候。母罷出候て弥次兵衛事御屋敷へ参り候て大酒仕り候事、別けて禁じ申し候えども幼年の者の様にこれなき由辺々申し候て、親の子を思う道抛んどころ無く存ぜられ候。御屋敷へ罷帰り候に門番藤兵衛、堀氏より用事これある由承り置き候故直ちに参り候て暫し咄申し候、吉祥院も入来候て咄申し候。木場源五兵衛殿大坂より帰られ候て御国元状到来申し候。さてまた今日村井右膳殿より手紙到来、院御所御屏風明日四つ時分差し上げ候様にと三沢宅岐守殿、小佐治阿波守殿より返事参り候由にて直ちに兩人の手紙も参り候て拝見申し候、御請け申し遣わし候。

十日 晴天 暖気

今日四つ時院御屏風差し上げ候。先ず近衛様へ罷上り候て右膳殿へ取り逢い候。追付差し上げ置き候御屏風、官御方人足にて持たせ禁裏御内玄関へ罷上がり候て小佐治阿波守殿、鳥山下総守殿出られ候て請け取られ候。鳥山殿事は院御所御取り次にて候。御奉行いまだ御出勤ならず候間申し上ぐべき候間退出仕り候様にと承り候故、直ちに近衛様へ参上仕り候て、御用段々首尾よく相納め申し、偏えに御威光故とありがたく存じ奉り候由申し上げ候。殿下へ申し上げられ候処、御誼の趣段々御用首尾よく相済み御満悦申し召し上げられ候、天機定めて入るべき御意候。兼て仰せ聞かされ置き候御掛け物はゆるゆる書き調べ申し候て然るべく候。当時は花も盛りの事に候間随分心静かに見物等仕り候様にと申し召し上げられ候由、右膳殿を以て仰せ下され候。今日は嵯峨大学寺宮様御成りにて御対顔遊ばされ候故、裏松殿も御出候えども久しく御待ち居りの体にて候。追付堀方右衛門殿参られ候て一所へ罷在り御吸物、御酒下され候

て、今日は上賀茂へ参詣申し合わせ置き候由、右膳殿へ咄申し候えば早く参るべき由にて、兼て頼み置き候鷹野中納言殿狂歌自画讃御染筆下され候由にて相渡され候。万右衛門殿へ一枚もらい申され候。右膳殿咄にこれまた堂上方より段々絵の御好み仰せられ候方多く候えども一切に断り申し達し候。然るに廣橋弁殿この間仰せられ候は最早先日一幅到来にて、この上は仰せられ難く候えども唐花鳥の掛け物一幅何とぞ探元へ望み思し召されし候間、宜しく申し達し候様にと拠んどころ無く仰せられ候故、右膳殿より申され候は余方へは一切御断り申し上げ候て取り次ぎ仕らず候えども、廣橋様御事は法橋勅許の節識事にて御座候に付き、私より御断り申し上げ候て重ねて探元へ申し聞かせ候わば、格別の御方にて御座候と申し候わば気の毒御座候間、こればかり御取り次ぎ仕るべく候と申し上げ置き候由承り候故、絹地下され候様にと申し置き候。左候て退出仕り候に御庭の桜、万右衛門殿一目拝見仕るべき由申され候て列れ立ち候て見物仕り候。追付罷立ち候て平松殿へ参上仕り候て、この間御父子様御筆物南泉院僧正を以て願ひ奉り候処、御筆染められありがたく存じ奉り候由申し上げ置き候て罷帰るべきと仕り候に、押して取り次ぎより留められ候て使者の間へ罷通り候処、石黒主膳殿出合われ候て御吸物、御酒下され候。侍従殿へは御番にて御留守なり候。入道殿へは申し上ぐべき由申され候えども御断り申し上げ候て、追付罷立ち候て藤本彦右衛門方へ参り候えば、堀氏は藤本同道にて賀茂へ越され候由にて、元春、権八待ち居り候て茶漬朝山振る舞い申し候故食べ候てみなみな列れ立ち参り候。乗物、鑓、挾箱は藤本より帰し申し候。左候て賀茂にて堀氏に逢い候て御宮巡り見仕り、神人へ所々相尋ね候。岩本橋本の社と小石頂き申し候、ここは佳景申し尽くし難く候、

神心何かへだてむ今よりの行末守れ賀茂のみづがき

さて今日は八十来祭とて、紫野今宮も祭りにてかの方祭り過ぎて、賀茂の社へ八十来おどり参るとて見物多く候。やがて参り候故見物申し候。笙、鉦三つ上に当氣の生花あり、小童三人もかしらかつぎ赤き着物、くくり袴、かつ鼓打ち候。次ぎに壮年の者五六人、装束童に同じ、鉦を打ち候、拍子は壇尻にて候。次に大勢素襖に烏帽子、刀差し候てめいめいに太刀一振りずつかたげ候て踊り候。謡は花よ花よ八十来花よかつたる小袖にいばらにかけてほいほい、この如く申し候。皆この近郷の百姓にて候由、今日競馬の狩りを始むる式という説もこれあり候。みなみなこの樹下に休み居り候て酒、飲み物、食事に候。追付罷帰り候に河原に罷出候て盆石取り候て、河原にてたばこ、酒呑み候て遊興申し候。それより堀氏は駕籠にて元春、権八、彦右衛門同道にて室町筋罷帰り候。熊井長門宅にてたばこ呑み候て彦右衛門罷帰られ候。左候て御屋敷へ罷帰り候て直ちに堀氏へ立ち寄り候処、木場源五兵衛殿出られ候て酒下され候。罷帰り候処吉祥院私宅へ入来。平松殿御父子様私へ御尋ね、御菓子、せいろう、御酒一樽拝領仕り候、存じ寄らざる所の次第存じ奉り候。則南泉院へ御出下され候様にと申し入れ候処、追付御入来候て披き申され候、吉祥院、富田氏遊興に及び候。石黒主膳殿手紙にて私へ御尋ねの趣は、宜しく僧正より仰せ達せられ候様にと申し候。吉祥院申され候様にと手紙参り候由にて、則此手紙私方へもらい請け申し候。

十一日 半晴

今朝川元市左衛門殿、井筒屋傳兵衛入来。追付東福寺より靈源院へ居られ候林蔵主見舞にて候。平松殿より昨日参上仕り候御礼御使者下され候。堀氏、南泉院へ相談申し候て追付罷出平松殿へ御礼に参上仕り候。

石黒氏へ逢い候て昨日存じ寄らず拝領両品御礼、かつまた今朝は御使者なし下され候御礼申し上げ候。さて進上物唐絵筆二管、文字筆三管、二号楚紙二枚進上仕り候。直ちに罷帰り候、木場源五兵衛殿呼び候て右の酒、菓子振る舞い候て咄申し候。夜入り候て元春、権八呼び候えども権八事は他出にて元春参り候故御酒、菓子振る舞い申し候。川元市左衛門殿も一刻入来候。

十二日 朝曇以後属晴

今日一刻絵書所へ罷出候。追付罷帰り、兼約により白川遍詢律師へ参り候。堀氏、南泉院僧正、元春、権八にて候、角之倉與市殿も御入来候、そば切り馳走にて候。今日は平松殿へ鞠御興行にて私事も参上仕り候様にと仰せ下され候えども御断り申し上げ候て、南泉院、堀氏追付かの方へ参らせられ候跡にて、絵共少々書き候て與市殿ゆるゆる御意を得候。雪舟筆巻物必ずかの方へ参り候て、写し候様に抑して承り候故大形に契約申し置き候。やがて罷立ち候て知恩院内罷通り候処、桜漸く咲き出候て佳景にて候。二間茶屋へ出候て暫し休み四条通り罷帰り候に、御旅の四条道場に説法これあり立ち寄り聞き候、やがて罷帰り候。南泉院へ暫し立ち寄り候て、今日白川において笠空比丘より御詩御伝給い候礼申し入れ候。また白川において中院通り、茂公御歌、智恩院園芳野山学頭になりての春と遊ばされ候御掛け物御馳走に掛けられ候故則席に写し申し候、珍物にて候。

十三日 晴天

今日絵書所へ罷出候て、九つ時分より吉見勝兵衛案内にて智恩院座敷見物に参り候。先ず狩野興意筆、尚信筆、古外記筆張り付け襖、杉戸沢山なる事にて候、終日ゆるゆる見物致し候。帰路二間茶屋にて飯、とうふ、

酒取り候、取肴にて振る舞い候。酔後長楽寺へ歩行致し双林寺に参り候て、宗仙房案内にて国阿の像、伝教大師の作薬師如来、恵心の弥陀開帳申し候、夜入り候て罷帰り候。西行桜今日三分一の盛りにて候。

十四日 朝曇天 午後属晴

終日殿下御掛け物下絵に取り掛かり候。朝の間越後屋市左衛門入来、並河長兵衛入来。絵書所にて木場源五兵衛殿酒振る舞われ候、晴六殿、元春、権八にて候。朝山参り候て罷帰り候にも私宅へ来たり候。但朝の間彦右衛門も入来候、清江院より文持参候。

十五日 晴天 風吹午後静

今朝御屋敷中礼儀申し達し候て、直ちに絵書所へ罷出候て暫し相勤め、九つ時分より兼約により中睦叟方へ富田氏同道にて参り候。先ず並河長兵衛へ立ち寄り候て召し列れ睦叟へ見舞い候、先ず薄茶立て候て振る舞い候。床の掛け物先年写し候て遣わし候重其昌慈母鳥の自画自讃にて候。花は李花、椿、楽焼の船に生け候て釣り候。炉に若屋釜文無し、棚を置き候て上に袋入りの茶入、下に梨地の棗仕込み、茶碗井戸さざめきにて候。追付料理出候、

皿 鯉の子づけ めし汁 ずいき 鉢 雁

くり はまきり 焼とうふ 三つ葉 せり

しぶ鯛 はまきりす

焼物小鯛 吸物 すいぜんじのり

菓子 唐まんじゅう 取肴色々、吸物色々、後段かまそうめん

さて右の袋入り茶入は古備前大瓢筆にて候、赤き葉にて候、よき出来にて候。袋切片身白地二重つる古金襴、片身今織り金襴、うらあみみるちやかいき皆々見事に候。杓紹鷗形の節無し、水指は棚の下に金の物半分

引き出し候て茶点て候、珍しき仕舞にて候。倅道随当年十六歳にて薄茶立て候。睦斐婿に橘屋の惣助と申し候者勝手に居り候て近付きになり候、比丘尼、利興出候て逢い候。段々閑談に及び候て、四つ過ぎ御屋敷へ罷帰り候。今日昼、村井氏より殿下御用の朱書き鍾馗の絹地、廣橋殿御頼みの絹地おのおの三張り持たせられ候。

十六日 晴天

今朝中睦斐倅道随、並河長兵衛同道にて入来、昨日見舞い候礼にて候。追付絵書所へ罷出候処、近衛様村井右膳殿より手紙到来、唐花鳥書き付け相調え候わば差し上ぐべき由申し来たり候。後刻持たせ差し上ぐべき旨申し遣わし候て則取り掛かり候。相調え堀氏へ相談申し候、左候て三幅対の下絵に相掛かり候。南泉院へ平松殿より御餞別参り候間、一見仕り候様にと申し来たり見物に参り候。絵書所へ罷帰り、またまた絵に掛かり候処肥後平左衛門殿入来にて、先日よりまちがい候て初めて逢い申し候。帰宅申し候処道昌庵より喫茶活法持たれ候、帰り便にかの方家由緒一卷箱入れ相返し申し候。唐花鳥の書き付け村井氏へ持たせ差し上げ候処、則御覧に入れられ候えば、難しき事相調え差し上げ御満足思し召し上げられ候由返事申し来たり候。夜入り候ておとわ入来、吸物、酒出し申し候て暫し咄候て帰られ候。

十七日 晴天 暖気

今朝仕舞い候て絵書所へ罷出、殿下御用の御三幅対下書き相調え候。昼過ぎ南泉院僧正へ堀氏より餞別振る舞いにて相伴に招かれ候。料理以後歩行として清水花盛りの由にて見物に参り候。堀氏、南泉院、押川六左衛門殿建仁寺の前より松原通りに参り候て清水へ参詣申し候、花盛りにて候。咲くも残らず散りも始めん折にて候。発句

ようこそはけふきに三つの花盛り

掃路四条へかかり候て、屋敷へ参り候て直ちに堀氏にて候。後段にて候て延年に及び候。

十八日 大雨 午後属晴

今日終日下書きに相掛かり候。昼の内財部孫之丞殿江戸へ罷通られ候に立ち寄られ候て、一刻帰宿申し候て吸物、御酒出し候て咄申し候。道昌庵より朝山方へ手紙持たせ候て天龍寺の付け状到来申し候。鴻之池入道道億方へ参り候事廿二日三日の間と申し来たり候、廿二日しかるべき由申し遣わし候。夜入り候て川元市左衛門殿入来候、暫し咄申し候て罷帰られ候。

十九日 曇天

今日は兼約により嵯峨の釈迦御身拭いに参り見物仕り候。堀氏並びに押川六左衛門殿同道にて朝五つ前御屋敷罷出三条通りに掛かり候て参り候。太秦の廣隆寺に先ず参り候て拝み候、庭の桜最中盛りにて嵯峨へ参り候人々多く休み居り候。それより直ちに清涼寺へ参り候て承り合ひ候えば御開帳いまだこれなき故、庭の腰懸に休み候て老婆に承り候えば、拝み候には内陣へ押して入り候て宜しく候由申し候故、三人同道にて大勢の内を押し分け内陣へ入り候。追付勤行始まり候て相済み候えば、御開帳候て御身拭いの式分明に拝み候、承り及び候よりは信心相起き候。大勢の人立ち重なり候て押し入り候こと難儀のため休み候。追付相済み牛堂に参詣いたし候て名作の五大尊と牛一見申し候。直ちに院主へ参り候て御身拭いの布申し請けたき由申し入れ候えば、内陣へ参り候て申し受け候様にと申され候故申し受け候。それより妓王、母女、妓女、仏御前の塔見申し候て仏前拝み申し候、弥陀仏にて候。往生院と申し候、則同所

に瀧口入道の庵跡これあり巡見申し候。三室院と申し候二尊院へ参り候て光林房案内にて客殿見物、四方の眺め驚目申し候。二尊は春日の作、圓光大師足引の影、村雨の亭見廻り候て野々宮へ参り候。天龍寺へ道昌庵の付け伏乞い候て、慈濟院へ相渡し候えば客僧案内にて書院見物、庭の池は心の字の形、則龜山と申すは庭の山に続き申し候、夢窓国師の時分よりの石今にそのままなり、佳景申し尽くし難く候。直ちに三間茶屋の前通り候て川原上り候て、戸無瀬の瀧の向いにて弁当開き候て遊興に及び候て、雨気になり候故渡月橋を渡り虚空蔵の寺法輪寺に参り、庭の桜盛りにて候。雨しきりに降り出し候て堀氏は駕籠、押川氏同道にて松尾へ参り候て拝み候て、鳥居の前腰懸に休み候えば堀氏も同前に候間、また弁当の茶、酒呑み候て、六左衛門殿同前に桂川の渡船過ぎ候て、梅の宮に参り候えば堀氏も同前に候。雨止まず候て泥路難儀に及び、暮れ時分帰宿申し候。喜右衛門方へ風呂立ち候故一刻入り候て、夜入り堀氏、押川氏入来にて今日の遊興残らざる旨趣咄申し候。今昼村井右膳殿より手紙参り候、喜右衛門方へ預け置き候、明日巳刻御用候間衣袴にて罷出るべき由申し来たり候。また帰宿申し候節、木場源五兵衛殿酒迎いに呼ばれ候故参り候。元春、権八、源五兵衛殿へ天龍寺の門にて逢い候えども行き分け候て、同行にてこれなく候。

二十日 雨天 午後属晴

今朝巳刻近衛様へ衣袴携え候て罷上がり候て、村井氏へ取り逢い候えば、昨日綾小路中納言殿並びに八條中将殿より仰せ渡され候は、この度探元へ禁裏院の御屏風並びに御衝立の絵仰せ付けられ、宜しく出来差し上げ候御褒美として、三夕寄せ合い書きの和歌拝領仰せ付けらる由にて相渡され候。かつまた御両卿様より仰せ渡され、禁裏御取り次ぎ三沢彦岐守

殿、小佐治阿波守殿、飯室越前守殿、鳥山上総介殿、五十川若狭守殿より、このたび禁裏院御所御用宜しく出来致し差し上げ候、御機嫌の御沙汰候。これにより御褒美として緞子五端拝領仰せ付けられ候、この段伝達仕り候様にとの御事に候由にて、皆々頂戴仕り冥加至極申し上ぐべき様もこれなき次第存じ奉り候由、関白様へ御礼申し上げ候。かつまた兼て仰せ付けられ置き候御三幅対の下書き相調え差し上げ候処に、御覽遊ばされ御詠の趣先ず以て禁裏院中御用首尾よく、御褒美として拝領物仰せ付けられありがたく存じ奉り候由、別けてめでたき事に思し召し上げられ候。かつまた下書き御目に掛け候、みなみな宜しくでき候、この通りに清書仕るべく候。さてまた綾小路、八條の両卿事、この節の奉行にて何か掛りに候間絵一幅ずつ書き候て遣わすべく候。今日直ちに両卿へ御礼に参り候様にと仰せ出され候、畏れ入り候由申し上げ候。追付御吸物、御酒下され候内右膳殿咄申され候は、昨夜殿下御噂に、昨日は三関使の御式にて終日禁中へ御座遊ばされ候に、左近の桜盛りにて朱笠共持ちたる下官共、かなた、こなたへ眠り居り候体、探元へ見せ候わば定めて絵に書き申すべきにと色々御詠これあり候由承知仕り候、誠に以てありがたく存じ奉り候由申し上げ候。追付退出申し候て直ちに綾小路殿、八條殿へ御礼に参上仕り候て申し上げ置き候て帰宿申し候。元春方へ立ち寄り候えば文右衛門殿立ち寄られ候えども、最早罷立たれ候て今晚は森山迄参られ候由申し候。同伴に吉野山角之坊、太春事御国元へ中下りにてこの節上り候由にて居られ候。権八も居合わせ候て堀氏只今帰宅候の由申し候故、手形所へ参り候て拝領物の儀申し達し、かつまた御両卿へ絵一幅ずつ進上仕る筈に仰せ付けられ候間、絹地御渡し下さるべく候様にと申し入れ置き候。左候て川元市左衛門殿へ立ち寄り候えば中島利

兵衛居合わせ候て暫し咄申し候。追付罷帰り候処堀氏祝に入来にて候、川元市左衛門殿、中島利兵衛、能勢五郎兵衛殿、同権八、富田清六殿、太春坊、元春、書物屋半七、藤本彦右衛門、みなみな祝に入来、吸物、酒出し候て祝申し候。

廿一日 晴天

今朝早く大原十兵衛殿、赤崎平兵衛殿伏見よりこの方へ着にて旅宿へ入来候。追付赤崎彦兵衛殿着にてみなみなこの方へ入来候。追付私事殿下へ昨日の御礼に罷上り候、加治掃部殿詰め合いにて申し上げ置き候、今日は御讓位にて殿下卯之刻より御参内にて村井氏供奉の由承り候。追付退出仕り申し候て直ちに壬生の地藏へ御開帳に付き参詣仕り候、赤崎氏父子、大原氏、権八同道にて壬生に約により待ち合わせ候に逢い候。直ちに東寺へ参詣仕り候て、壬生も東寺も群集にて候。東寺の茶店にみなみな休み候て晚来藪の下見物、仏光寺へ桜、楊柳見物申し候て御屋敷へ罷帰り候。

廿二日 雨天 晚来

今朝絵書所へ罷出候て、南泉院宿跡へ絵書所相直し移し申し候。兼約により道昌庵承順同道にて、堀氏同所に鴻之池道億へ見舞い申し候、当年八十一才の人にて候、別して静かなる人にて候、夕飯振る舞われ候。

皿 くり しゃらは めし汁 ひとつふ 松たけ 三葉せりくき

とうふむはす い、みふむは なめす、き 山椒の芽

のぞき こんにやく 菜 あつ物

引肴 ほうれん 吸物 すり山の芋 茶前 川たけ鉢に

ひたし 茶後 むかし、茶碗 古唐津

引而糸目 酒ふ わさび

座敷四帖半なり、奈良にこれあり候珠光の座の写しなり。掛け物、花安仁水亀、一文字雲金、中銀にて上下煤竹かいき、軸唐木。床に少し蹴込みあり、壁白紙張り、子細あり。次の間踏み込み床、すいはつ、白木に珠光所持の備前焼筒、花桜一枝、つつじ二枝。見もの楽焼太郎坊、宗旦所持箱蓋に名印あり、東陽坊黒楽、利休所持自筆銘書きあり、二品は楽長次郎作なり。次ぎに光悦楽、黒楽碁笥形白藁口ひずみ、光悦、古織へ持参にて、釜師淨味へ申し請け後に道億の親父へ子細により遣わす。右黒楽は本国寺へ光の寺ありて寺物にて候処、道億の寄進これあり志を感じて遣わし候、なかつく赤楽奇なり。桃尻古銅の杓立は東山殿御物、家は羽田作の中次、茶入故事あり、この杓立同物、両替町後藤友閑所持あり、同じ物なり。古備前の共蓋水指目利の故事あり。雪舟六祖の小立物、東照宮御所持の物故ありて落手、一文字風帯紗地金襴、中紫印金、上下茶海黄。段々目利の咄、故事の談数刻に及び暮れ前罷帰り候、道昌庵烏丸にて相別かれ候。

但庭の手水鉢は東呉之もの、東呉之と大文字の銘あり。庭前の松の根に珠光刀掛け石あり、並びに細川三斎老御所持のひき、手洗鉢あり、見所みなみな奇物なり。

廿三日 半晴

今朝大原十兵衛殿、赤崎彦兵衛殿へ堀氏より朝飯振る舞われ候故相伴に参り候。追付絵書所へ罷出相勤め候。八つ前罷帰り候て赤崎氏、大原氏同道にて祇園へ参り候て茶店へ腰掛け候。百合が所にて歌尋ね候えば、

花

色も香もあかぬ心をうつしてや花に忘るる事しげき世を

それより長楽寺へ参り候て花の盛りにて巡見申し候。帰路二間茶屋にて

夕飯下され休み候て、智恩院の桜馬場通り候にみなみな花散り候て地に敷き候。四条筋へ出候て暮れ時分罷帰り候。鴻之池道徳より昨日見舞い申し候礼申し来たり候。夜入り候て元春より大原氏、赤崎氏へ一樽持参申し候て酒興に及び候。

廿四日 晴天

今朝大原氏、赤崎氏父子江戸へ発足にて候、御門迄見送りに罷出候。庄右衛門事は三条通り迄相付け候て遣わし候。追付並河長兵衛入来、吸物、酒出し候。やがて絵書所へ罷出候て相勤め候。庭前に古桑の木これあり桑茸出生申し候故、堀氏より則吸物に調えられ候て絵書所にて振る舞われ候、堀氏、伊集院次太夫殿、元春、権八にて候。八つ前より兼約により大仏馬町桜之庵に居られ候自性尼へ見舞い申し候、元春、権八同道申し候。当時東福寺へ居られ候、林蔵主妙心寺へ居られ候全首座参り居られ候。庭の古桜樹二株八重桜にて、花雪の如く風に散り乱れたる体言語に絶し候。小池あり水面に浮かびたる花、地面に散りたる花、真に雪中の景、詩歌も尽し難く候。座敷の正面に象梅和尚の筆にて、無人是貴人と書かれ候額これあり候。所々の静けさ四隣人語なし、只蛙声のみありて半日の閑申し尽くし難く候。向こうに平山、竹木、森々と見え候は妙法院、御境内半より東上は松平長門守殿御屋敷なり。桜の庵との間は谷にて畠なり、菜の花今盛りにてこれまた奇観なり。やがて料理出候、庵主の馳走、なかなか懇意に及び候。七つ過ぎ候て尼の案内にて向こうの山に道ありとて歩き出され候に、畠道より西下を見候えば大仏谷尻に当たり、前に茂りたる森ありて下々に続きし處あり。尼の言葉に宮御慰みに音楽折々ここにおいて聞し召さると、東上は暫しはしる谷越えの山遠く見えたり。さて長門守殿御屋敷の中を通りて行くに、家共多くありて

広きこといと珍なるに、尼の言に九千坪ありと言ひ伝うと。少し門を出たるに則豊国なり、明神の社朽ち果て今は新日吉と言ひて宮の御造宮なりとて、それとも七八人柱の石取り替え庭の土平らかにする侍り、豊国明神の社朽ち残りたるを日吉と改めて、御殿も拝殿も引き直したると見ゆ。則自性尼には長門殿御屋敷門口にて暇乞い申し候、林蔵も同前。さて鳥居を出るに、側に飛梅の天神とておわします山を遠く出て大仏に参りたるに、当時河内の国下の太子開帳にて人多くたつとびぬ。様々の霊宝ども見果て、ここを巡見するによく浄瑠璃歌、見せ物様々の事にて男女の群集申し尽くし難きばかり。三十三間堂に矢通す人ありて暫し見物申し候て、やがて腰懸に休み候て往来を見物し、大仏殿の前を通りて建仁寺前に掛かり四条筋罷帰り候。

廿五日 終日雨天

今朝大坂詰め有川与左衛門殿八幡参りに事よせ、絵を書きに上京候。朝茶振る舞い候て追付絵書所に罷出終日相勤め候。木場源五兵衛殿絵も御用序でに染筆致し候故硯水これあり数盃に及び申し候。暮れ時分帰宿申し候。

廿六日 晴天

今朝絵書所へ罷出候て、終日相勤め候。有川与左衛門殿今日大阪へ帰られ候。かつまた今朝今大路内蔵権頭殿手紙到来候、兼約申し置き候絵絹持たれ候。梅庵へこの間の札に庄左衛門遣わし候。夜入り候て堀氏へ咄に参り候。能勢五郎兵衛殿、伊集院次太夫殿、押川六左衛門殿、有馬休兵衛殿四つ時分帰宿申し候。夜九つ時分より雨降り出し候。

廿七日 雨天

今朝六つ時より院御所遷幸拝見に、兼て近衛様より参上仕り候様にと仰

せ付けられ置き候。堀氏は付け役兩三人、私事は元春、権八召し列れ候様にと承り置き候。堀氏は仕舞い早く候て先達て押川六左衛門殿、伊集院次太夫殿、能勢五郎兵衛殿同道にて参られ候。私事は権八召し列れ候て跡より参上仕り候、加治掃部殿出合われ候て逢い申し候。追付右膳殿出られ候て御取肴、御酒下され候。拝み奉り候場所へ案内付け申すべく候えども、刻限今少し間これあるべく候。若君様方も公家衆の御門御借り候て御見物遊ばされ候えども、いまだ御出これなく候間、ゆるゆる休み申すべき由にて得と罷在り候。追付案内の人参られ候故同道致し候て、右の人数参り候えれば近衛様と札立ち候所へ参り候。青竹にて床これあり、筵敷き候てこれあり候。追付円座人数の数持ち来たり候故みなみな得と座り候処、雨頻りに降り候て止まず候。右膳殿より手紙、天气悪しく候て定めて難儀仕るべく候、錫遣わし候間雨天浚ぎ候えとの事にて万右衛門殿、私へ申し来たり候、鼻紙に万右衛門殿返事調えられ遣わされ候。さて箱披き候えれば取肴両品、錫一對候、茶碗二つ参り候故みなみな賞翫申し候。左候て加治掃部殿よりこの方へ宜しき場所これあり候、早々参り候えと申し来たり候に付き、則参り候えれば持明院殿御門に簾これあり、その前に筵敷きこれあり候。藤谷兵庫殿、菊池左殿、掃部殿居られ候て、ここ元宜しく候間見物申し候様にとの事にて候。前も広く候処、段々女中御屋敷中より出候て、少しも御通り筋見え申さず候故、立ち出で候て男女の中に入り交り候処雨頻りに降り出し候て難儀に及び候。また掃部殿より外に見所これある所に参り候由押して申され候故参り候えは、日野西殿御門に右同前これある所に参り候。ここ元は前狭く候て一筋に明け候故よき所にて候、河原御所御側衆青山内記殿、河野勘解出殿居られ候て近付きに罷なり申し候。近衛様、御所君様方もここに御座遊ばされ

候哉と相考え申し候。雨殊の外降り候て止まず休み候。追付院御所へ遷幸の御行粧なかなか言語に絶し候。一条殿、二条殿御様体、その外公卿殿上人随身の粧迄も驚目候。御車の御有様殿下も御歩行の御供御後備えにて候、この時少し雨止み候。さてまた今日の雨に男女共に衣服濡れ渡り、殊更かつぎ女の奇麗に出立候も泥にまみれ水をしばり候、堂上の御装束もことごとく濡れ渡り候。貴賤の群衆おびただしき事にて候。やがて中立御門に廻り候て上立売瀬尾新次郎宅へみなみな立ち寄り申し候て休み申し候。早速薄茶立て候て追付酒出し候、料理振る舞い申し候、馳走に及び候てゆるゆる休息致し七時半時分罷歸り申し候。夜入り候て木場源五兵衛殿咄に由来、吸物、酒出し候て語り申し候。

廿八日 晴天

今朝菊屋勝兵衛入来、兼て咄申し候常州桜川の石にて彫り候硯持参申し候て志し申し候間、受用申し候様にと押して申し候故落手申し候。御国元町人徳田伊兵衛来たり候。追付橋屋九右衛門入来、この間川元市左衛門殿取り次ぎにて絵書き候て遣わし候故酒肴持参申し候。追付罷出候て堀氏へ今日の祝儀申し置き候て、絵に相掛かり候。御屋敷中の衆入り来り候、宿屋次右衛門へ遣わし候唐大竹の筒、輔信様へ願ひ候えは下し遊ばれ候由にて持ち来たり見せ候。猛虎と名御付け候珍しき筒にて候。夜入り候て堀氏入来にて九つ時分迄閑談に及び候。

廿九日 晴天

今朝絵書所へ罷出候て、暫し相勤め候。並河長兵衛、二文字屋善兵衛私宅へ来たり候。兼約により九つ前より堀氏同道にて東福寺即宗院へ罷越し候、同伴川元市左衛門殿、元春、権八にて候。寺町より五条橋罷通り大仏へ参り候えは、当時河内国下太子開帳にて見物品々候故巡見致し候

て、腰懸に休み候えは市左衛門殿、元春、権八は三国小十郎と申す輕業仕り候を一刻見物故、堀氏同道にて私事三十三間堂の芝生にて弓稽古見物申し、直ちに泉涌寺通りに参り候処、中島利兵衛事即宗院へ参詣致し候て帰り候に逢い候。追付即宗院へ参り候て御靈前拝み奉り院主出られ候て、富田清六殿勝手へ今朝より参られ候て出られ候て、奥の座敷へ参り候えとの事にて罷通り候。暫し候て川元氏、元春、権八も参り候。当寺川岸崩れ候に付きて修補のため横目佐々木源兵衛殿、檢者木場源兵衛殿相詰められ候故同前座敷へ参られ候。追付料理出候、種々御馳走にて候。中休みに後の山に登り候処洛中の遠望驚目申し候、山中都の風景無旌に候。さて山下北に茨木童子が池と云うこれあり。往昔茨この寺中に住みたる人間にてこれあり、朝夕寺の飯かしぐ男にて、夜々この池水を浴びて積悪を清め侍れけれども、住僧触穢を改めらるによりて行方を隠しつつ羅生門に住み候と云い伝えたりと。この池水いかなる日照りにも濁く事なし、杜若生じて根からみて、水の中央は深さ限り知られずと。池の広さは十帖敷ばかり侍り、泉涌寺の悲田院向こうに見えて東福寺の山との間谷にて道ある側なり、怪しき見所なり。さて即宗院の方へ帰えり入りて竹の生い茂りたる檀あり、昔自然居士の庵跡なり空居庵と云えり。土中に石をもてたためるありと、今は見えぬ。居士の井の水今も地の下りたる所にあり、これも日照りつめても濁く事なしと云えり。ここにて四方の眺め言語に絶し候。西東に当たりて稻荷山の村立ち谷を隔てて川ありて、水の音雪の折などはいかならんと思わる。それより寺に帰りてまた品々の馳走にて、夜入り初夜過ぎ候て各暇乞いして、帰路四条筋通り候て御屋敷へは四つ時分罷帰り候

晦日 晴天

今日は兼て並河長兵衛御室の花見興業相催し置き候。堀氏へも故障これある筈に候処明け申し候て同道致し候。川元市左衛門殿事は私より誘引申し候、元春同前候、四人列れ立ち候て長兵衛方へ参り候えは待ち居り候。追付打ち立ち候て妙心中罷通り候て御室へ参り候えは花盛りにて候、最早散り候木もこれあり候。群集にて見物人多く候、観音堂の縁に幕打ち候て終日閑に見物申し候。長兵衛色々馳走に及び候、堀氏の茶弁当にて薄茶下され楽しみ申し候。花の夕映えにて只今より来り候人々もこれあり候。帰路龍安寺へ立ち寄り候て巡見申し候、ここに昔日吉首座と申す茶人これあり候、寺は方丈の左に入りたる所にて候。折節住僧留守にて門差しこれあり候故遠見申したるばかりにて候、閑寂の地にて候。それより北野へ出候て七本松の腰懸に休み候て、長兵衛宅へ暫し立ち寄り候えと申し候えども一礼申し達し候て直ちに夜入り候て帰宅申し候

享保廿年卯閏三月朔日 雨天 餘寒

今朝志賀武兵衛殿、菊屋勝兵衛入来。追付礼儀に罷出候て直ちに絵書所へ相勤め候。昼過ぎ平松侍従様御使者なし下され候。その後御疎ましく思し召し上げられ候、御安否御尋ねなされ、御肴一折遣わされ候由。右の序でに候故入道様よりも御伝言遊ばされ候由、御使者石黒三之丞殿にて候。但石黒主膳殿子息なり。御請け御礼申し上げ候て、吸物、酒出し候て、追付帰られ候。

二日 時々小雨降 餘寒

今朝仕舞い候て、平松様へ昨日の御肴拝領仕り候御礼として参上仕り候。申し上げ置き候て御暇仕り候。往来さかい町罷通り候。追付絵書所へ罷出候処、薬師山清江院より見舞いにて帰宅申し候。御所御用筋これあり、相達せられ候。堀氏も同前の事候えども、外方へ出られ候故私方へ承り

置き候。兼て芳林院様へ基熙公御自詠の儀申し上げ置き候処、探元事は格別に思し召し上げられ候由にて一枚下され候。牡丹の御歌にて候。ゆるゆる咄にて候、夕飯振る舞い申し候て七つ前に帰られ候。朝山事同道にて参り候。

(植えて見る人の心のふかみ草なおう外の色さえぞ添う)

三日 晴天

今朝並河長兵衛入来。序で宜しく候間南禅寺見物に案内申すべき由にて相催し候。追付絵書所へ罷出候て、八つ前堀氏も幸いに候間、同道申すべき由にて権八も同前候。三条通り白河へ参り候間、禅外子方へ明日靈空和尚へ参り候事は相延べ申すべき由申し遣わし候。それより南禅寺へ参り候て座敷見物申し候。古法眼永徳筆真花鳥、八仙人、二十四孝の図見事なる事にて候。山門にも上がり候て本尊観世音菩薩、十六羅漢様み候。この山門は藤堂和泉守高虎大坂陣以後寄進にて候、棟札にこれあり候、かつ寺僧の物語なり。左候て南禅寺へ参り候て見物、法皇の御影拝み奉り候。座敷の絵は狩野養朴にて候。庭の体驚目申し候。それより金地院へ参り候、座敷の絵狩野興意にて候。霧の間、花鳥の間、松梅の間殊の外出来申し候。杉戸も同筆にてあまた候。東照宮御宮拝み奉り候。側に十ヶ年以前建立の薬師仏御堂御座候。左候て玄関の前に古松これあり、往来に眺め候。寺僧に暇乞い致し候て豆腐屋に入り候て休み申し候。南禅寺豆腐、飲酒下され候。花鳥、山の景この方は菜の花の盛りなるに、向うの人家に山吹の生垣花盛り候て相續きなかなか見事に候。追付罷立ち候て、長兵衛事は悲田寺村より直ちに罷帰り候故、みなみな白河に帰り、青蓮院様御境内罷通り候て智恩院の門前罷通り四糸筋帰り申し候。

四日 晴天 暖気

今日終日絵書所へ罷出相勤め候。大坂へ伊集院次太夫殿下され候故、御国元へ比志島殿、福山平太夫殿、御下屋敷平田平六殿へこの節禁裏院御所より拝領物仰せ付けられ候御礼のため申し上げ候、宿元状も頼み遣わし候。七つ前より堀氏、押川六左衛門殿同道にて平松様より遷幸拝み奉り候様にと仰せ下され参上仕り候て、石黒主膳殿へ逢い申し候て、追付同道にて御棧敷へ参り候て余程間これあり候。群衆おびただしきことに候。それより段々堂上方御行粧なかなか申し尽くし難く候。御乗輿の粧この節御再興の由、前日殿下において承知奉り候に承り及び申し候より言語に絶し候。誠に以て冥加の至りなり。それより主膳殿同名三之丞殿へ御礼申し上げ候て、境町御門へ参りかかり候えども、押し合候てなかなか通り難く候故、下立売御門へ相廻り候て、直ちに吉見勝兵衛方へ立ち寄り休み候て段々馳走に及び候。四つ前罷立ち候て三人同道にて帰宿申し候。

五日 曇天

今朝宿屋次右衛門来たり候。銀閣寺見物案内の儀当日黒田御禁断の節候故、御朱印寺この後遠慮深く候間、先に延引然るべきと申し候故その通り相定め候。終日絵書所へ相勤め候て、殿下御用の朱書き鍾馗二幅書き調べ申し候。昼の内川元市左衛門殿素麵振る舞われ候故、元春、能勢兄弟参り候。また絵書所へ罷出候て相勤め、七つ時過ぎ罷帰り候。

六日 雨天

今日は堀氏、富田氏兼約にて宇治見物の筈候えども雨天故相延べ候。殿下様より仰せ付けられ候二幅対の絵も出来寄せ申し、並びに朱書きの鍾馗二幅成就致し候故持参仕り、村井右膳殿へ取り逢い候て差し上げ候処、別けて宜しく出来御満悦思し召し上げられ候。これにより右の二幅対御

掛け物に長銘御好み遊ばされ候、薩陽大貳法橋探元と書き候て差し上ぐべく候。大貳は則太宰の大貳に候て、則この名は呼び名に拝領仰せ付けられ候旨御錠蒙り候。則御書き付頂戴仕り候。御礼申し上げ候て、御酒下され候て御暇仕り候。直ちに瀬尾新次郎方へ前日武者小路實陰卿御懐紙賜り候御礼に立ち寄り候えども留守にて申し置き候。御屋敷へ帰り候て堀氏、元春、権八この方へ入来にて吸物、酒にて先ず祝申し候。藤本彦右衛門見に折節来たり候。追付佐々木源兵衛殿呼ばれ候て素麵振る舞われ候。権八、清六殿参会、沈酔に及び候。この時雨晴れ七つ過ぎなり。夜入り候て承順方眼入来、ゆるゆる閑話を得候。珠光筆の茶事の文章写し賜わり候。夜話に宇治見物に参り候わば、長井貞甫方へ古織の座敷、書院、庭の飛石迄も今に御座候。古織の切られ候ふくべ尾州の御茶師にて候由、また上林三人方は宗和の座敷、書院も候。これまた庭の体同前候由、四つ前帰られ候。

七日 晴天

今朝絵書所へ罷出候。堀氏へ見舞い申し候処即宗院殿浄首座より使僧に参り居られ候て私へも御口上候。前日かの方へ召し寄せられ候御挨拶にて候。さて追付取り掛かり候て殿下御用の二幅対成就仕り候て大貳法橋今日書き初め申し候。先日相調え申し候未書きの鍾馗二幅も同前に名印仰せ付けられ候。綾小路中納言殿、八条中将殿へ進上仕り候二幅も今日相調え申し候。終日絵相勤め候て罷帰り候て、即宗院殿より御手製の茶二袋、浄首座使僧にて下され候えども、私留守故置かれ候。明日は金閣寺銀閣寺見物として宿屋次右衛門案内の筈に候。堀氏申し談候て相催し置き候。承順法眼も同伴頼まれ候故、明日早く北野七本松の辺に待ち居られ候様にと、藤本方迄手紙調え候て届け申し候様に頼み遣わし置き候。

晩景白河遍詢僧正禪外より使僧、庭前の牡丹漸く咲き出し候、十一日頃兼約の通り南禅寺豆腐焼呼び候て、花見の興催し申すべく候間参り候様にと仰せ聞かされ候。忝なく存じ候由御返事申し遣わし候。

八日 晴天

朝五つ時近衛様へ参上仕り候て、仰せ付けられ候二幅対長銘書き候て差し上げ候。朱書きの鍾馗並びに絵二幅綾小路殿、八條殿へ差し上ぐも同前御覽に備え候処、みなみな宜しく出来御満悦遊ばされ候。この段宜しく申し達し候様にと村井右膳殿を以て仰せ下され候。かつまた御両卿へは持参仕り候て差し上げ候に申し及びまじく候。右膳前より相伝え候様にと仰せ付けられ候由承知仕り候。追付御暇仕り候て直ちに道昌庵門外に参り候て承り候えば、最早北野の様に参られ候由申し候故天神の神前に参り候て拝み奉り、七本松に庄右衛門遣わし候えば、皆々御門外に参られ候に逢い候て、かの方この方見物申し候て、また御門外腰懸に暫し休み候て、宿屋長七亭主横にて鳥居の側に大きなる石塔これあり候。道昌庵に尋ね候えば所にも申し伝え相知らず候。じやらぞうきその塔とも申し候由。京の者喪に込み候て喪明け候て、世間仕り候日必ずこの塔に先ず参ることなりと申し候由。直ちに平野へ赴き候に、谷川ありて腰懸茶店多くあり佳景なり。明神の前打ち過ぎて畠道道遠く行き過ぎて金閣寺へ参り候。則寺僧案内にて見物申し候。閣の体申し尽くし難く候。下は阿弥陀の三尊、上は仏無し、天井の板等ここかしこ新しく、古く作り継ぎたる所多し。池水あり、鏡湖池という。山石、細川石、九仙八海石などいふあり、池の中島霧島つつじ咲き、かしこの岩根にも盛りにて、静かなる水にうつろふ景色絶景なり。龍門の瀧というあり、御茶の水汲みたる所茅葺きにてあり、四方の山に樹木の体、衣笠山、筆にも及び難

く、また山中に池あり、安民沢という田地に用いる水なり。茶屋あり、宗和の作即休という額あり、並びに夕佳亭という額もあり、地高く、閣は下に見ゆ。追付中門に出たるに中睦叟子息道隨並ぶ、二人同道にて見物に來たり候に逢い候。中門に出候時寺僧私を招き候て永徳の屏風客殿にこれあり見物申すべき由申され、参り候て見候に、仙人を書き候て眞の墨絵にて見事なる絵にて候。暇乞い申し候て出るに見物人多く候て、付け状を持参するあまた候。この体にては案内者もさぞ退屈たるべきとみなみな申し候。門外の林中にて次右衛門より中飯を振る舞い候。四方の眺め東山遠く見え、霞に遠近の別これあり佳景にて候。直ちに等持院へ参り候。先ず山門に休み候。客殿庭の古松奇観にて候。尊氏家代々の御影拜み候。尊氏の塔も堂の側にあり作庭の景見事に候。衣笠山はこより正面なり。追付寺を出て堀氏私は駕籠にて、承順、元春、権八歩行にて今出川通り直ちに参り候て百萬遍の門前茶店に三人休み居られ候。

銀閣寺の門外に参り候て各次右衛門を待ち候えども來らず候故、暫くありて次右衛門來たり候故案内にて見物申し候。閣は古く見え候。本尊は觀世音にておわします。庭は相阿弥作夢の石とて水の中に立ちたるあり、その外臥牛石また龍背橋などいあり。東求堂は今日堂上の御簾中衆御入りにて、我々扱んどころ無き見物故この堂に隠し奉り置き候間、見せ候事なり難き由寺僧の物語りに候。こも霧島つつじ盛りなり、閑清水とて山より落ちる水あり、新緑山深くして佳景なり。寺を出て直ちに獅子ヶ谷法然院恩朝和尚の寺地参りたるに庭の泉水絶景なり、横赤松深く茂りたる山にてこも霧島つつじ盛りなり。座敷の絵は永徳筆花鳥、折節本堂の勤行なるに、先ず障子のこの方より聞くに、ありがたき文句ども平に唱えて、弥陀仏の誓いにもれず正念に終わらんことを一向に申し

終えて、後に聞き伝えし獅子ヶ谷流の念仏なり。座敷にて煎茶、たばこどふえて、それより真如堂に参り、巡見して吉田の山道に入りて虚空蔵の御座ある知恩院という寺に次右衛門、長七亭主にて夕飯振る舞い申し候。床の掛け物には古織の文物から面白く候。花入の筒は九十二才の茶人の作りしやがきししやがきし入り候。段々馳走に及び候。打ち廻りたる松樹の間より真如堂遠く見え山々も木の間につらなり、打ちたたく念仏のかねの音に里谷の入る相の鐘打ち重なりて、夕霞深きに月出て眞に絶景なり。火どもともして吉田の山道を帰り來るに、木の間より漏り來る月、斑消えたる雪の如し。それより聖護院森に出て二条の上より下りて三条の橋を渡りて來るに、四条の方見渡さるに燈の数いくらとも知らず打ち続きたる景は例えをとるものなし。初夜過ぎて帰り着きぬ。

但承順は吉田の社人町にて相別れ候て、二条筋帰られ候。

九日 晴天

今日近衛様より昨日参り候由にて、堀氏の家來衆請け取り置き候絹地十幅どうさ地引かせ申し候。終日絵書き候て兼約故富田清六殿へ夕飯振る舞いに参り候。堀氏、私、元春、権八にて候。段々馳走に及び候。夜入り候て堀氏の家來衆浄瑠璃三味線にて遊興に及び候。

十日 晴天

今日午の刻近衛様へ参上仕りべく候。席書御所望に思し召されし候由兼て仰せ付けられ置き候故、元春、権八召し列れ候て参上仕り候。早く参上仕り候由右膳殿申され候。左候て雪舟筆草花の墨絵御屏風並びに春日の御検記と申す古巻物拜見仰せ付けられ候。御客人様御出にて絵御見物の筈に候えども、いまだ御出これなく候間、ゆるゆる拜見仕るべき由仰せ付けられ候。この巻物は元來南都春日神物にて候えどもここへ上げ置

き候由、先ず箱の古体申し尽くし難く候。絵は隆兼の筆、文章は古代の堂上父子二人の御筆名覚え不申候。御先祖の添え書、筆者目録あり。祖神の靈にて候間返す返す信仰あるべき由の御文段なり。延慶年号の御書き付なり、三十卷なり。軸の口に藤の丸あり、表紙の絹縷地立湧き藤花なり、黒塗りの箱の蓋上に寄せて藤の蒔絵あり。漸く十卷見物仕り候節、宮様方御なりにて相止め候、尤も最前御料理下され候て以後の事にて候。暫しありて皆々様御なりこれあり候間、御座敷へ罷出候様にと仰せ付けられ候。御座敷は関白様、中将様、閑院宮様、一乘院宮様、妙法院宮様、毘沙門堂宮様、滋井宰相中将殿、交野少納言殿、平松侍従殿、諸大夫衆、御側衆数多く候。さて罷出候処、一乘院宮様名御尋ねこれあり候。関白様より探元と御申し候。妙法院宮は去年より上京の由聞こ召し上げられ候由御説候。絵三幅書き候て、休み候様にと関白様御説にて御次の間に下り候処、宰相殿、少納言殿、侍従殿御座より御下り候て私へ御言葉、この節いまだ近付に御なり成られず候、御知人に御なりこれあるべき由仰せ渡され、滋井殿はこの間朱書きの鍾馗一枚関白様より下され御愛での由仰せられ候。侍従殿御言葉、この間は折々見舞いに候えども御まぢがいにて、いまだ得と御近付きにもなられず候。先日は京都にて珍しき品々上がり候て別けて御調法の由仰せられ候。追付元春罷出候て書き申すべき旨仰せ出され候て罷出候。また権八罷出候て書き候様に仰せ出され候て罷出書き申し候。その節交野少納言殿私へ御用の由仰せられ候故側に参り候えは、近頃御無心の事に思し召し候えども、唐花唐鳥の花鳥の絵四幅書き調べ進め候えかし、急にとは思し召されず候。御国元にもいつにても御頼み遊ばされ候。唐鳥に鷓鴣と申す鳥京都にて図もこれなく候間、御好みにて候。その外は禁裏御衝立に書き候様なる絵様御

望みの由、返す返す御無心の事ながら、絹地この度四幅御持たせこれあるべき由仰せられ候。追付毘沙門堂宮様御なり、今日絵御書かせ遊ばされ候事聞こ召めし付き候間、御出の由当年十四にて御入り候。一門様は当年三十一にて御入り候。妙法門様は廿ばかりにて御入り候。閑院様は廿の上にて御入り候。追付私罷出候て段々御好みこれあり書き申し候、その間に関白様、宮様方へ御物語何か御ざれ言など御説候。その式なかなか申し上げ難き体なり。御菓子上がりて御菓子参るべき由関白様御説にて候。また元春、権八罷出、代わる代わる書き候内は私休み仰せ付けられ候。御泉水に舟これあり、御小姓衆十四五、十二三の衆参られ候て棹さし廻る様子、御庭の体見事に候。毘沙門宮向この岸広い行き廻り給うに、滋井宰相殿かうむる装束にて付け参らせ給うなどは、絵にこそ書かる事はあれと感心申し候。それより段々御好みにて絵あまた書き候て御使者の間に下り候て休み候時御馳走これあり候。最早絵は御仕舞い候えども中将様当年御十八歳、今一枚御望みこれあり候由、またまた罷出候て書き調べ候処、近藤大膳殿など拠んどころなく諸大夫衆申され候故、またまた書き候て追付下り申し候。それ迄は少納言殿、侍従殿御見物にて候。夜入る前宮方御還りにて候。私事数献に及び候て元春、権八召し列れ候て中立売御門へ駕籠廻させ候て、歩行仕り候て御門外にて乗り候て罷帰り候。川元市左衛門殿、喜右衛門夫婦、甚六呼び候て取りあえず祝申し候て、吸物、酒出し深更に及び候。一門様、坊官衆、高間法印近付きに罷なり候。

十一日 晴天

今日は白河遍詢僧正へ兼約により牡丹見物に参り候。元春、権八召し列れ候て、花盛りにて鷺目申し候。左候て暫しこれあり、禪外同道にて私

事は靈空和尚へ御見舞い申し候。上御梶井様御近所、日光御門主御里坊お近所にて候。御見舞い申し候処當時碧巖の御講談にて暫し承り候。追付御仕舞い候、日光御門主御母堂御聴聞に御座候て相待ち候。やがて御立ちにて和尚へ対顔を得候、承り及び候よりは御達者にて候。当年八十四歳にて候。耳遠く御眼も薄く候由、私もの申し聞かせられ候て歳御尋ね候。当年五十七才に罷なり候由申し候え、三十の上相増し候間老人共いうにや及ぶと仰せられ候。門のさし入れに白藤の棚これあり候。花数一万三千程相付け候由、十三四間の棚にて候。詩これあり候由承り申し候。暇乞い申し候てまたまた白河へ参り候処、元春、権八は知恩院一万日にて見物に参り候故、呼びに遣わし候て追付入り来たり候故夕飯出し候、うごぎ飯御馳走。さて南禅寺より豆腐焼きを呼び寄せ候て田楽御振る舞い、さてさてよき御馳走にて候、料理もよく候、御酒数献に及び候。元春、権八事深酔に及び候故早く罷立ち候て、私事は律師の方へまた参り候て花見申し候て、茶たて候て暫し咄申し候て、暮れ時分帰宿申し候。夜入り雨降り出し候。

十二日 晴天

昨日村井氏より御所において書き調べ候絵共、屏風箱に入れ付け手紙相付け持たせられ候えども罷出候故、堀氏の家来衆請け取り置き候て相渡し申し候。今日則仕出しに取り掛かり候。昼の内咄、とわ見舞いにて一刻罷帰り候。朝の間木下省順も見舞いにて候。終日絵相勤め申し候。夜入り候て中島利兵衛入来。この間参宮仕り候て一昨日帰京の由咄にて候。

十三日 晴天

今朝堀氏より朝飯振る舞い。先日富田氏宇治見物に差し越され候節堀真朝方にて、この年新茶所司代土岐丹州様へ進上仕り候御残りの由にて、

堀氏私へ志せられ持ち帰られ候に付、今朝清六殿点前にて一服下され候。並びに堀氏へ吉村道与新茶一服持参申し置き候処、則相續き候て下され候。追付絵書所へ罷出、先日御所において書き調べ候絵共仕立て申し候。佐々木源兵衛殿一刻見させ申すものこれあり候間参り候えとの事にて参り候え、富田氏、川元氏、並河居合わせ候。吸物、酒馳走にて候。夜入り候て佐々木源兵衛殿、富田清六殿同道にて四條御旅の寺にて談議これあり候故聴聞に参り候。今日元春、権八愛宕へ参詣に付きて庄左衛門にも相付け遣わし候。初夜過ぎ罷帰り候。

十四日 晴天 時々曇

今朝加治木能忍寺の弟子見舞いにて候。追付有川与左衛門殿入来、暫し咄候て罷立たれ候処朝山来たり候、吸物、酒出し候て咄候。やがて罷出候て絵相勤め候。七つ時分与左衛門殿大坂の様に帰られ候。さてこの間交野少納言殿へ返事取りに今日近衛様に御約束申し置き候絹地四幅、先日御持たせ遣わされ候。蔭山帯刀殿より手紙相付けられ候返事取りに今日参り候故御返事申し上げ候。晚来喜右衛門所へ風呂立ち候故入湯申すべく申し来たり候故、一刻参り候て入り申し候。夜入り井筒屋伝兵衛呼び申し候て染物等の料物相払い候。やがて堀氏へ一刻見舞い候て越後屋市左衛門より茶事、白銀相談申し候。

十五日 晴天

今朝御屋敷中祝儀申し達し候て、追付近衛様へ参上仕り候て、先日御所において書き調べ候絵共仕立て成就致し村井氏へ相渡し申し候。御朝参にて候間上げ置き候て御暇仕り候。菊池左殿へも一刻逢い申し候。左候て直ちに不随廬山寺の前に罷出候えども、駕籠の者別御門に待ち居り候故寺の門内腰懸に休み候て呼び寄せ申し候。直ちに河原町渡部求馬殿へ

見舞い候て禁裏御屏風書かれ候一見申し候。閑談を得罷帰り候。やがて
絵書所へ罷出候て相勤め候。夜入り前富田氏入来にて吸物、酒出し候て
咄申し候。折節喜右衛門殿夫婦参り候て清六殿同席にてゆるゆる語り申
し候。

十六日 晴天

今朝堀氏の両息、堀右衛門殿、八郎次殿見参に出京にて一刻見舞い申し
候。追付絵書所に罷出候て終日相勤め候。川元庄衛門殿より茶振る舞い
なさるべき旨承り便故、晩来直ちに立ち寄り申し候。元春、権八同前に
て候。

十七日 晴天

今朝仕舞い候て絵書所へ罷出相勤め候。九つ時分より堀氏同道にて伏見
へ樺山主計殿御着にて御見舞い申し入れ候。六条河原へ参り候て直ちに
伏見道へ罷出、宝塔寺へ参り候て元政法師の寺見物申し候。左候て伏見
において長谷川藤兵衛宅へ参り候て、伊集院次太夫殿、当時御飯屋修補
の検者に参り居られ候て、御酒出され藤本彦右衛門母子来たり候。追付
主計殿御着きにて堀氏同前にて御見舞い申し入れ候処夕飯御振る舞い、
ゆるゆる御咄申し入れ候。夜入り九つ時分罷立ち候て帰路月明、竹田通
り罷上がり候て東洞院へ参り候。二文字善兵衛相付け候て参り候。御屋
敷へは七つ過ぎ罷帰り申し候。

十八日 曇天

今日仕舞い候て絵書所へ相勤め候。左候て節田傳兵衛殿伏見より参られ
候て、追付本城源七郎殿、高山武右衛門殿、小倉孫右衛門殿、野本八右
衛門殿同道にて私宅へ見舞われ候故、吸物、酒出し候て一刻咄申し候。
やがて兼約により三条の上聞法山頂妙寺裏常住院小座にて、越後屋市左

衛門茶湯申し候。堀氏、富田氏、私三人にて候。この常住院の古住持に
孝淳と申す人候。古織、小遠、宗和など、松花堂など同時の人にて茶人
にて候。世上名譽これある仁にて候。古織、小遠、宗和、その外松花堂
誰かれの文今にこれあり候。後住に清淳と申す人、これも茶人にて則当
座はこの人の住宅のままにてこれあり候。自画自讃の掛け物等これあり
候。笠を着け候小人形書き候て、

上見れば叶わぬ事の多かりき笠着て暮らせおのが心に

座敷の体、さてさて面白き所にて候。茶室は二畳台目にて候。市左衛門
茶具付

但茶室の額朽木板にて清淳亭とこれあり候

一掛物 玄又玄衆妙門一行物 澤庵和尚筆

一花入 備前焼、薄板にのせ花杜若

但今日大仏の池杜若、妙門寺へ初めて上がり候、御残り到来申

し候由にて生じ候

一茶入 古備前底に△如し このへら書きあり

袋縦に段々絞り変わりの金欄下白

一茶杓 古織

一茶碗 古高麗

一茶室 二畳台目にて候

次の問書院床掛け物、八幡山坊中衆茶湯の請文、松花堂の筆なり。写し
仕り置き候。柱に道安作の筒、花あざみ、さてこの座敷にも炉二所にこ
れあり候。清淳の住居のままにて候。小壁などには瓢箪盃などをぬり出
し下地窓にこしらえ、小床の脇壁には扇子形の下地窓などもこれあり候。
水屋道具棚もこれあり、角かけて仏壇付け厨子の様にこれあり候。内庭
には池これあり、張り出したる板敷これあり候。池を目下に見候えば池

を廻りて杜若あり、楓の新樹竹林打廻りて毛氈など敷き、今日閑かなり候て閑なる窓の眺め感心申し候。今の住持は孝淳と申し候由、色々の宝物共見させ申され候。座敷には出し申されず候。市左衛門馳走に及び候て初夜過ぎ罷歸り候。さて矢野権左衛門殿先祖自隱院と申す人はこの寺中より出られ候人にて候。琴の上手にて候。その頃絶たる伝を続けたる人にて候由、今に自隱院と申す寺近所にこれあり候由。

十九日 雨天

今朝早く朝山伏見へ木脇嘉左衛門殿へ参り候由にて立ち寄り申し候。追付絵書所へ罷出相勤め候。晚來御所より村井氏手紙到来、御別業へ召され候儀廿四日五日の間治定仕り候て申し上ぐべき旨申し来たり候故、廿四日然るべく存じ奉り候由申し上げ候。先日席書の絹地入り候て参り候、御屏風箱もこの便へ返し候様にと人足参り候故持たせ遣わし申し候。文箱も同前に返し申し候。川元市左衛門殿大坂へ御用に付きて下され候故御国元へ状遣わし候。殿下において席書仰せ付けられ候段、かつまた大貳拜領の段、福山平太殿、比志嶋隼人殿御下屋敷へ平田平六殿へ申し上げ候。夜入り候てこのたび山下十左衛門殿詰めに上京に付て、萩原三省老二男三隆殿上がりに付き咄に招き申し候。初夜前歸られ候。

廿日 晴天

今朝白河の禪外入來。同時靈空和尚の侍衆古雲より僧衆を以て、老師の詩章書き改め候由にて持たせられ候。並びに印肉の儀相尋ねられ候。追付相出候て相勤め候。村井氏より御別業へ参上、いよいよ以て廿四日巳半刻かつまた私一人参上仕りべく候。絵御書かせ遊ばされ候事は御沙汰これなき由申し来たり候。追付手紙を以て申し遣わし候は、何ぞ輕品進上仕るべき哉指南受け申したき旨申し遣わし候えば、先き頃最早土産に

進上物これあり候間それには及び申すまじき由申し来たり候。昼の内また古雲より印肉調合頼み来たり候故、僧衆待たせ置き候て合せ遣わし候。使僧明石の産にて候由承り候。やがてまたまた罷出候て相勤め候。堀方右衛門殿、佐々木源兵衛殿、有馬休兵衛殿、木場源五兵衛殿、山下十郎左衛門殿見物に入來候。

廿一日 晴天

今朝仕舞い候て絵書所へ罷出候て暫く相勤め候て、兼約により朝山より大橋平藏、安井の門前屋敷の宅借り候て、堀氏、私、押川六左衛門殿、能勢五郎兵衛殿相招き候故同道致し参り候。二文字屋善兵衛取り持ちに参り候。四面見晴らしたる亭にて候。向こうに八坂の塔、祇園林下河原一面に相連らなり絶景にて候。段々馳走に及び候て初夜時分歸宿申し候。

廿二日 雨天

今朝木場源五兵衛殿入來。晚景夕飯振る舞わるべき旨契約申し候。堀氏より富田氏へ錢別として料理振る舞われ候故相伴いたすべく由申し来たり参り候。絵書所へ暫し罷出、追付帰宿申し候処、吉見勝兵衛、田中甲治入來、勝兵衛事近日丹波へ罷下り候。自然私発足その内に候らわば逢い申すまじき由にて暇乞いとして来たり候。吸物、酒出候て暫し咄候て、やがてまたまた罷出相勤め候。七時半頃約束により木場氏へ見舞い候。料理食べ候。元春、権八にて候。追付五郎兵衛殿、川元市左衛門殿入來、堀氏も入來にて馳走に及び候。四つ時帰宿申し候。竹山檢校へ濱川勾當より遣わし候状今日庄右衛門相届け候。今朝早く村井氏より手紙到来、修学院拝見いよいよ廿五日に治定申し遣わし候。案内はかの方より遣わさるべく候由申し来たり候えども、御手紙相付け給われ候らわば持参申すべき由申し遣わし候。

廿三日 雨天

今朝仕舞い候て絵書所へ罷出終日相勤め候。今日富田清六殿事発足の由にて候。藤本彦右衛門絵書所へ来り候て暫し咄罷在り候。

廿四日 晴天

今朝四つ時近衛様へ参上仕り候て村井右膳殿へ取り逢い申し候て、河原御別業へ参上候に付きては、御取り合い申し旁方指南頼み給い候様にと申し入れ候えば、御玄閨へ参り候て案内申し入れ候わば、かの方にてみなみな承り居り候間参るべき由にて、追付御別業へ参上仕り候。利助殿取り次ぎなられ候。御使者の間に罷通り候て罷在り候処、松本采女殿出られ候て近付きに罷なり申し候。私より申し上げ候は、先ず以て准后様御機嫌よく御座遊ばされ恐悦に存じ奉り候。さてまた今日は参上仕るべき旨村井右膳殿より承知仕りありがたき仕合わせに存じ奉り候。この段宜しく御取りなし頼み奉り候由申し候。追付御座敷へ罷通り候様にと御座候故、御庭に出候て飛石を参り候て小さき中門を入り候て、二畳敷きの御座へ入り候て、杉戸のこなたに脇差扇子置き候て罷出候処、御座上に候八畳敷き真中に御座遊ばされ、御衣藤色地紋これあるを召され候。則御礼申し上げ候処、采女殿より木村探元と披露申され候御説、去年からのぼつて苦勞な事じや、関白より無心を言われて段々できたを見たに、皆見事な事じや、殊に山水の絵は心を尽くして細かに気を付けて見所が多いことじや。また禁裏院中の御用も仰せ付けられて皆首尾よく調べて、殊に叡感でめでたい手柄なことじやと思ふ。早うこの方へも呼び逢おうと思ふたけれど、何やかやしてまた暇の無いに妨げとも思ひ今迄のびた。今日は言いてやつたに来て絵の咄を得としようと思ふ。また見てもらいたい物もあり、とかく得と居て、今はこうした狭い住居で。

さて寺々に古画どもあるは定めて見てあらう、大徳寺の方丈は探幽が山水殊に見事なことじや、うらの座敷に花鳥、人形さまざま体をかえて書きて外には類いもないことじや。また琉球国には何と在る者が絵が一よいか。呉師虔と申す者孫億弟子にて書き申す者にて御座候由申し上げ候処、なる程関白の方へある見た、孫億が様に見ゆる。朝鮮国は絵も字も琉球程ない、琉球は学文もとかくよく風雅な国じや。段々学者もできたであろふ。さて御床に白鹿一疋大きに書き候て小瀧をあしらい候絵これあり候。御説にこの絵の筆者取々にいう毛益でもあろうか、易元吉でもあらうか得と見てもらいたい。左候て御後ろの襖御開け候て御入り、渡部求馬殿事今日召し呼ばれ候て参り居られ候故、御床に参り候て得と拝見仕り候に、毛益にてこれあるべく候と存じ申し候由申し談候。さて御次に十畳敷き御座床に三幅対探幽筆中雲中の文殊、左右は真山水、法眼書にて候。言語道断見事に候。下り候て座し候処に御出、何と存じ候哉と御説候故、毛益にてこれあるべきと存じ奉り候、鹿の毛書き、かつまたあしらいの瀧明朝絵の体に御座候は、毛益の手くせと存じ申し候由申し上げ候えば、なる程鹿は古画の体に見え、瀧は林良、呂記の筆法の様にもこれありと思し召し上げられ候。申し上げ候通りよく御見せ遊ばされ候て思し召し上げられ由御説候。さてまた御説、先頃は求馬に絵本を貸して則見せた、先年関東に下つた時、城で馳走に見物した絵本を見て思い出した探幽が絵の至極ていねいな物で、あの絵本は珍重な物じや、求馬申し上げられ候はこの節探元滞在間も無く罷なり候て、殊更残り多く存じ申し候由申し上げられ候えば御笑い遊ばされ候。さて右の学古図を常信に書かせたに六十枚ばかりはある、絵本のままなもある、また珍しき図もあり、見合にもなるべくと思ひ手鑑出させ置いた得と見

物せい、その内は出ぬであらうと御詮にて御入り候。さて拝見の品々

一常信筆学古図折本表紙絹緋地蝙蝠の紋金

一李安忠鶉栗野菊鳥四つ横物

一楊補の梅讚あり小立物

一月親葡萄讚あり小立物

一趙昌黄長春小角物

一雪舟筆鍾馗ふくさ物大立物

一探幽筆瀧に花紅葉の二幅対大立物

一同筆中豊干左鶴竹右鳩薄三幅対ふくさ物

それより段々絵の御咄これあり、御答え申し上げ候。この御方様雪舟筆達磨の絵の儀聞し召され及び候由御詮にて候、何かと久しく御詮これあり候て、雪舟の芦雁一幅拝見仕り候時求馬殿より申し上げられ候は、この芦の書き様などは、さてさて気ままの筆勢に候え共、よく声に似候由申し上げられ候処、御詮候は、探元が聞くにこうは言いにくけれど、今の絵は絵で絵を書く、古人は生きて絵を書いた、誠に以て感じ奉り候。また段々御咄これあり候、追付御座罷下り候て御使者の間上の間にて御料理下され候。

皿 鯉の子づけ 汁 うこぎ 小皿 奈良漬

大根はり 大根薄く切りて

二春寒 竹の子 いらこ こぼろ とうふ 葉山椒

大皿 伊勢海老 二つ割り

御吸物 鯛

御菓子 おぼろまんじゅう

ようかん こんぶ

右沢山奉書敷きて盆にのせ申し請け罷帰り候

御濃茶かくふく 紫ふくさ 茶碗新渡り三島手黒絵も入り

御菓子は包み候て頂き申し候。御料理下され候内に松本采女殿、青山内記殿、渡部求馬殿出られ候てあいさつにて候。さて采女殿を以て仰せ下され候は、今日は八つ後少し御用の儀共これあり候故、御座へも召し出されず候。久々御覧遊ばされ候。滞在も今少しは間これあるべく候間、その内またまた御呼び遊ばさるべく候。何の興もこれなく候に退屈仕り候わんと思し召し上げられ候由誠に以てありがたく存じ奉り候。今日は段々冥加の儀申し上ぐべき様も御座無く候。宜しく御取りなしを以て頼み奉り候由申し上げ候て追付御暇仕り候。直ちに御本殿へ罷上がり候て村井氏へ取り合い候て御礼申し上げ候処、宜しく申し達し候様に仰せ付けられ候由承知仕り候て御暇仕り候。右膳殿より明日修学院拝見の儀先ず御所に向けて罷出べき由申され候故帰り候て堀氏へ申し談候。帰宿申し候て元春、権八、木場源五兵衛殿祝に入来候。折節山下雲洞も入来候て、夜入り候て川上権之進殿江戸へ通らせられ候て御見舞いにて候。暫し咄申し候。

廿五日 雨天

今朝仕舞い候て修学院拝見に打ち立ち申し候。堀氏も同前に候故有馬兵衛殿同心にて候。私事は先ず准后様へ参上仕り候て、昨日の御礼申し上げ置き候て追付退出仕り候。直ちに御本殿へ参上仕り候えば、堀氏参上にて右膳殿出居られ候。修学院へは少し御用の儀もこれあり、御待ち合い利助殿参り居られ候間、御茶屋下りの口と申す処へ出合い申すべく候間その通りに心得申すべき由承り候由。追付退出仕り候て今出川通りに参り候処、休兵衛殿、元春、権八も茶店に待ち居り候故皆々同道にて

参り候て、利助殿相尋ね候て出合い、やがて御茶屋守松宮内記殿と申す人へ取り逢い候て、則座敷へ召し呼び入れられ候故、たばこ呑み候て罷在り候に道見親王の御文、後水尾院様御幸の節、交野可心様へ披露の御菓子、こけし進上の御文句にて候。当所に別けて相応の掛け物感心仕り候。さて御庭の人足相付けられ候て御池返り拝見、杜若盛りにて候。観月楼あり、この後ろに蔵六庵あり、御幸の時は御額掛け申し候由折釘皆々これあり候。小さき中御門竹林にあり、出れば田面なり、次第に地面高く行くに右の方は林丘寺なり、間近く見ゆ。上の御茶屋守岡田彦兵衛殿出合われ候、ゆるゆるの拝見仕るべき由承り候。案内右の人足なり。

隣雲亭などいふもあり、後の山に瀧落ちて、青葉の楓木くらき山、下がり上りの山路に脇掛けの家どもありて、行き廻るにやがて広き池の返りに出たるに岩の大きなるに古き松あり、近江国より移されたる木にて俗に千尋松といふとかや。きうすい亭とはこの方の高き処にあり、それより橋を渡りて廻るに止々齋の跡大きなる石体あり。向うの芝生松の中行くに、元来し山路、桜亭など古き松、雑樹のひまひまに見ゆるなどたとうべき物なし。御茶屋の境い広くなべて、この池は比叡の山の根にてより直ちに続きたるなり。行き廻りたるに隣雲亭の前にて雨また降り出して、御縁に尻かけて四方を眺むるに、松ヶ崎、岩倉などいふ所、御庭の内に引き続きて遠く見ゆ。加茂川また桂川、山崎八幡の方までも見ゆ。昔日この庭作らせ給うに、千宗且に勅ありて作りたるを御覧ありて、只ここ元の事のみをするぞとて崩させ給い、四方の遠近に山こそ自然の庭なれと仰せごとありしと松宮殿の物語なり。さて岡田殿より茶煎じ、たばこ盆取り出して借されしかば呑みて暫し眺むるに、雨に消え現わるる遠近の景色またたぐいなし。案内の者に問いけるは赤山の宮はいずこ

ぞ、また石川丈山翁の旧跡はいずこのあたりぞと問うに、心よく案内すべき由をうかがいて赤山殿の方へ近道とりして行き拝み奉りぬ。本宮は今御修補の用意ありて拝殿ばかりぞある。材木石など多く集りたり、この間に案内の者着きぬ。改めて一乗寺村に來たり、丈山翁の庵に入りていければ見物するに高さ楼あり嘯月楼と額すあり。小さき中門脇にある凹凸寮と額あり。座敷に入るは直ちに詩仙堂なり、板に書きてなげし間に打ちたり、文字皆はふ字に自筆にて書きたり。六物とて翁の調度にせし物今に存せり、道春春齋の書ける六物並びにこの八景の詩文あり、自作の巻物、詩仙の巻物詩自筆なり、はふ字なり。絵あり、ここには八景の詩文あり、自作の巻物詩文讀あり、巻物合わせて三卷あり。また翁の像は探幽が筆なり、翁の讀は八分字にて上にあり。楼の上のぼりたるに遠望殊に珍し、三疊敷きなり。ここ閑寂の地にて隣家も間遠からねど皆土民の家なり。八大天王という神のある鳥居の内なり、小僧の出てさまざまのこともをいい聞かすに詳しく見物しぬ。僧の名は普賢という。やがて鳥居を出て前なる茶店に入りてもの食い、酒呑みて、このあたりに古き名のさがり松というやあると問うに、この前なる古松こそさなるというに聞き驚きて見るにいと珍らかなり。やがてここを立ちて帰り来るに新南禅という所にやすらいて、とうふ食い、また酒呑みぬ。遊人いと多くて耳かしかましき程なり。さて利助殿は前の東山大明神に参る折、暇乞いして休兵衛殿、元春列れ立ちて鳥居の前なる茶店にて別れ帰られぬ。二人はここに止りて丈山翁の旧跡同伴にて見物ありし。帰路皆々相伴い帰りぬ。

廿六日 曇天 午後属晴

今日終日閑白様御用三幅対下絵書き申し候。夕飯下され候て堀氏へ約束

にて大仏の開帳場見物に参り候。堀氏は早く候て後より山下十郎左衛門殿並びに佐々木源兵衛殿同道にて参り候。宮川町において山下雲洞に逢い候故誘引申し候て、大仏にて堀氏、能勢五郎兵衛殿へ逢い候て同道にて見物申し候。遊人多く候。夜入り候て御屋敷へ罷帰り候。五郎兵衛殿同前堀氏へ立ち寄り候て咄申し候。追付罷帰り候に有馬休兵衛殿へ元春、山下氏咄にて候故呼ばれ候。暫し咄にて罷帰り候。

廿七日 晴天

今日兼約により薬師山清江院へ堀氏、元春、権八相催し候。伊集院次太夫殿、清江院縁者にて近日出足故晦迄として同道申すべき由にて候。堀氏は勤方これあり、御屋敷を早く出られ候て、元春、権八召し列れ、先ず藤本彦右衛門宅へ見舞い候て咄居り候処堀氏入来にて候。大徳寺へも堀氏は御香典持参に付きて早く打ち立たれ候。追付彦右衛門同道にて大徳寺へ参り候処次太夫殿大門に待ち居られ候。寺内にて堀氏へ取り逢い候て、満君様、亀姫様御石塔へ拜み奉り候。行者案内にて候。則この人案内にて方丈の座敷見物仕り候。みなみな探幽筆にて別けてよき出来にて候、法堂の蟠龍も同筆にて見物申し候。藤本方案内は金龍院と申すに居られ候語蔵主と申す人頼み候処、拠んどころなき支えこれあり候故若き行者を頼み候て出られ候。寺中沢山座敷見物申し候。細川三斎老御塔は高桐院と申すに候。この塔御在世の時殊に愛でられ候て、道中も持せられ候て夜々火燈御覽と伝え承り候。御亡後塔に用い候様にと御遺言にて、この如く利休の塔も寺中にあり。寺々名筆の座敷共見巡り候て、やがて八つ後薬師山へ参り候。恵斤山の口に出合われ候て直ちに方丈の書院にて料理出され候てゆるゆる咄申し候。当日清江院庵の普請最中にて見物申し候、別けてよき景にて遠近の眺め言語に絶し候。赤山大仏の辺

迄も遠く見え申し候、それより清江院の借庵に参り候、旧庵はこぼち申され候。段々馳走に及び候て夜入る前罷立ち候て罷帰り候に、田家の森の内に小社これあり候。これは牛若丸のえな埋め候処にて候。常磐の社もやがて近所にあり、上の宮下の宮というなり。産湯の水もあり、これはしちく屋敷とて今近衛様御下屋敷にてここにあり、皆道傍なり。さて大徳寺より薬師山へ参り候に今宮へ皆々同道にて参詣致し候、奈良の一乘院宮御参詣にて神前に参らず候て、上の壇に上がり候て焼とうふ、茶食へ罷在り候。茶店これあり候、往還これあり候。この道は北野千本の方へ相通り候。さて帰路藤本母、朝山同道にて宅へ暫し休み候えと申し候えども、腰掛け候て茶一服呑み候て罷帰り候。次太夫殿、元春、権八は先に帰られ候。

廿八日 曇天

今朝御屋敷中祝儀申し達し候。終日三幅対御掛け物に相掛かり候。七つ半時分帰宿申し候。夕飯後歩行として志賀氏へ見舞い候。武兵衛殿他出に付きて子息善藏殿へ暫し咄候て、出水の松元寿柏と申す医師当時ここ元へ稽古に居り候、参会候て逢い申し候。初夜前罷帰り申し候。隣家喜右衛門夫婦来たり候。

廿九日 曇天 小雨降

今朝早く仕舞い候て壬生の地藏へ参詣仕り候。御開帳来月八日迄に候故、得と拝み奉るためこの如く候。内陣に入り候て拝み奉り候、誠に靈仏にて信心相起こり候。帰路おとわ処に戸口迄見舞い候て夫次右衛門へも近付きになり申し候。追付絵書所へ罷出終日相勤め候。中睦更より饞別として品々子息道随持参候えども、壬生へ参り候留守にて元春方へ預り置き候て相渡し候。則手紙調べ候て札に庄左衛門遣わし申し候。序でなが

ら靈空和尚御弟子古林方へも手紙遣わし候。並河長兵衛事入來、三本松茶屋へ饒別に睦叟申し合わせ候て呼び申すべく催し候えども断り申し候。この段宜しく相達し候様にと相頼み候。夜入り大雨降り、山下十郎左衛門殿隣り長屋にて候故咄に参り候。

四月朔日 曇天 晚來属晴

今朝御屋敷中札儀述べ候て、追付絵書所へ罷出近衛様三幅対成就致し候。木場源五兵衛殿ふくさ紙絵相頼まれ候て、硯水これあり数盃に及び候。さて昼時分平松侍従様より御使者高田源之丞殿御口上、この間は絵御頼みにて候処染筆致し差し上げ候。御礼よつて堂上方御寄せ合ひ書き六歌仙並びに消息筆十対下され候。御請け石黒氏迄御申し給い候様に申し上げ候。

二日 晴天

今朝早く仕舞い候て、兼て仰せ付けられ置き候関白様御三幅対成就仕り候に付きて持参仕り候。序でに昨日平松様より御使者なし下され候両品拝領仕り候御札に伺公仕り候と申し上げ置き候。左候て直ちに近衛様へ参上仕り候て、村井氏へ取り逢い候て、御三幅対かつまた廣橋左中弁殿御頼みの絵も一幅同前差し上げ候処、御覽遊ばされ別けて宜しくでき申し候由、長銘相調え差し上ぐべく候。則御表具仰せ付けらるべき由御詮の趣承知仕り候。かつまた私御暇の儀も今月八日よりは加茂の御祭りに付けて御物忌に付きて、七日に参上仕るべき由先ず右膳殿へ内々に申し達せられ候。なお諸大夫衆より表立ち候て申し遣わさるべく候由、右の御三幅対は明日持たせ申すべき由にて候。それより御暇仕り候て兼約により、中村玉光堂今日鞍馬見物案内申すべき由にて、堀万右衛門殿、押川六左衛門殿、松元勘兵衛殿同道にて下加茂へ侍ち居り申すべき由契

約致し、今出川通り参り候て下加茂へ参り候えば、鳥居の内茶店腰懸にみなみな待ち居られ候て、玉光堂より一献勧め申し候節にてよき時分に候故打ち立ち候てみなみな鞍馬山へ赴き候。道路みぞろ池堰取の社拝み候て、それより市原野小町寺如意山補陀洛寺という小町の石塔にあなめ薄とてあり、四位少将の塔もあり、縁起承り候て市原村の茶店に休み、玉光堂いろいろ馳走申し候。それより福惜しみの毘沙門とて道傍におわします。鞍馬の多門天より福を与え給う人の帰路に、ここに来てこの毘沙門を拝み奉れば福を取りかえさせ給うとて、帰る折には見もやらず通るなりという。やがて鞍馬に参り着きたるに、月性院という寺借りて玉光より飯振る舞いし、座敷の体広く遠山目の下に続き、比叡の山窓の前に見ゆ。東光坊の跡とて茂りたる森あり、涙の瀧とて牛若君の歌よませ給う。水少しばかり落ちたるあり、

吹きおろす山おろし音夢さめて調催す瀧の音哉

案内する者の語りぬ。さて月性院のあるじの僧やがて濃茶たてて出されぬ、思いもよらん事にて侍りければいと興あり。茶碗は赤き楽焼きなり。堀氏の泡盛持参ありしを参るべき由言い遣わされけるに、往昔たえて中絶したるに一入珍しき物なりとて、ねんごろに札いい出されぬ。互いに難しければとて出はせざりける。さて毘沙門の御前に参りたるに思いしより尊くおわします、拝見奉りてこなたに寺僧のありけるに開帳望みて拝しぬ。判官の御具足、太刀、弁慶の太刀とてあり、弁慶山伏の錫杖もあり、魔王僧正坊の像大幅大きなり。左に役之行者、右牛若丸八才の御姿中に僧正坊赤面白髪、後に杉あり、古法眼が筆なりといひ聞けれど、古きは秘して今この絵は写しなり。ここかしこ巡見して直ちに僧正が谷というに赴きぬ。山路険しく登りて行きたるに、谷にはあらで北西の方

へ差し出たる山の尾崎なり。三方は遠く深き谷なり、ここは大小の石多くありて何くれ名付けたり。僧正坊の宮とて小さき祠あり。それよりはるばると谷に下りて貴布根の川あり。貴布根の明神に詣でて、また奥の貴布根というに参りたるに、山深く行き行きて見るに臺苔むし、庭も岩根も苔深く新樹木のくらきに、神さびたる宮居の様たうべきなし。ここを出て、とある茶店に腰掛けてまた酒呑みなどして帰りくるに、梶取の宮の前なる茶店に休みて、鬼一法眼の塚と聞こゆるはいずこそと問うに、あるじ案内して島の中に石を多く突き集めて五輪の塔を上立てたるに、この者語りけるはこの塔近き頃迄は全く高かりしを、銀座の者共色々奇物を集むる折から、京の者夜にまぎれて二人来りて、九輪などは盗み取りたる由、今は荒れはてて茨深く人の尋ね見るべき地にもあらず。暫しここに休みてまた酒呑み、物食いてやがて立ちぬ。それより加茂の堤に出て下加茂の辺りに来たり寺町を下り夜に入りて帰りぬ。夜入り初夜の頃筆取りてこの帳付ける頃はい郭公三四声鳴いて過ぎぬ、音羽山の方へ指して行きける。追付雨降る。

三日 雨天

今朝早く村井氏より昨日の三幅対持せられ候。長銘印仕るべき由仰せ付けられ候。かつまた廣橋左中弁殿御頼みの絵上げられ候処、かの方川端左衛門尉殿手紙御礼の趣この方へ手紙もらい置き申し候。追付絵書所へ罷出候て終日相勤め候。吉田友右衛門殿江戸より御先立にて、京都へ用事これあり上られ候て、万右衛門殿へ逢いに絵書所へ参られ候。晩来罷帰り候て藤本彦右衛門入来。追付井筒屋傳兵衛一樽持参にて候。用事等申し談じ候。

四日 晴天

早朝玉光堂来たり候て先日鞍馬へ案内申し候礼相述べ候。酒振る舞い候。追付絵書所へ罷出候て相勤め候。村井右膳殿より手紙到来、この間廣橋左中弁殿御頼みの絵染筆致し候処、御あいさつとして右膳殿方迄御使者遣わされ候。宜しく御礼仰せ入れられたき由にて堂上方御寄せ合書、三夕和歌並びに御目録下され候。御礼は御所へ近日参上仕り候序でに伺公仕り候様にと右膳殿より申し遣わされ候。先ずその内宜しく御取りなし頼み存じ申し候由返事申し遣わし候。井筒屋傳兵衛方へ頼み置き候長持染物でき候故、持たせ遣わし候故一刻帰宿申し候。晩来朝山入来。追付道昌庵も入来にて吸物、酒出し候。閑話に及び候。さてまた道昌庵の咄に三夕和歌は近年の撰にて候。日差し御心安き堂上方へ御咄承り候に、後西院様御撰のものに候由初めて承知仕り候。やがて並河長兵衛来たり候。書き候て遣わし候。富士表具相済み候。何とぞ七つ過ぎよりも参上候わば見させ申すべきと申し候えども断り申し候て、近日暇乞いに風と見舞い申すべく候。約束は差して申すまじく候由申し聞き置き候て、皆々四つ前帰られ候。

五日 晴天

今朝寿国寺弟子禅瑞入来。当時北野玉蔵院と申すに居られ候由。追付罷出候て終日絵書き調え申し候。晩景堀氏、木場源五兵衛殿同道にて寺脇筋歩行仕り候。

六日 晴天

今朝早く絵書所に罷出候。近衛様へ御暇乞いとして召され候。御日限り明七日と御治定候処御支えこれあり、八日に参上仕るべき旨諸太夫衆より堀氏へ申し来たり候。追付白河遍詢僧正より御使い、錢別として鷹司兼熙公御懐紙その外品々下され候。やがて仕舞い候て近衛様へ御請け御

礼に参上仕り候。さて私より進上物仕りたき旨兼て村井氏へ相談申し置き候、今日は休日にて加治掃部殿詰め居られ候間差し上げ候、唐盆二枚、孫億下絵の漁父の図並びに唐墨一箱。兼て成就仕り候て上げ候三幅対にも長銘の名印仰せ付けられ今日持参仕り候て差し上げ候。則御申し上げ候処御誼の趣別けて珍しき両品進上仕り御満悦遊ばされ候。盆の儀は御香炉召し置かれ候て御用に相達し申すべく候。唐墨見事の儀にてこれまた御用に相達し申すべく候。宜しく申し聞かせ候様にと御誼の由承知仕り候。尤も御対顔これあるべく候えども今日は御客来にて御座遊ばされ候。なおまた明後八日御直に御意遊ばせらるべくとの御事にて候。さて御吸物、御酒下され候様にと御誼の由にて頂戴仕り候。追付菊池左殿出られ候て逢い候。兼て私より頼み申し置き候烏丸光榮卿御自詠御筆の儀、八条中将殿へ御肝煎り頼み奉り置き候。委曲聞こ召めされ候て光榮卿仰せになる程好みの事に候間、書かせられ候て下さるべく候。さて私へ御わやく御座候間こ召めされ候に及ぶ間、造作ながら二枚屏風の押し物何にても一双方書き候て進上すべく候。あまた候て御わやくと仰せられ候由急にとは思し召さず候。国元より失念無く書き候て上げ候様にと仰せられ候由、八条殿御出候て仰せられ候由承り候。なる程御請け申し上ぐべく候由候。数献下され候て掃部殿より御暇の儀申し上げられ候処、なお明後日参上仕り候様にと仰せ付けられ候。追付退出仕り候て道昌庵へ暇乞いとして見舞い候処、かねがね茶事相催され候四疊半の座風呂にて候。生け花あざみ、紫蘭、古き小籠にて候。茶入織部日向ぼと、茶杓瀬田掃部、茶碗苗代川焼、会席馳走に及び候。菓子冷し葛敷き砂糖、瑠璃のびいどろ、皿桔梗形、さて見物、惟新公より先祖へ拝領の黒染十文字と名付け候、白く十の字重なり離れ候て、五つばかりこれあり候。雪舟

筆三幅対中舞鶴左右真山水、一休和尚立物文字数多し、玉室の状付き同筆歌のもの

我恋は心つくしに行く人の淀の渡りの曙の空

寂蓮法師の色紙准后様へ御覧に備え候処、この時分の色紙はかくの如く大形にこれあるもの由御誼候と申され候。下の絵下地に書き候。並びに探幽筆三幅対など見申し候。私へ信楽焼掛け花入れくれ申され候。道億目利きに合わせ候由申され候。数刻馳走に及び候。子息省順も出られ候て薄茶点で申され候。七つ過ぎに立ち候て罷帰り候。

七日 晴天

今朝仕舞い候て絵書所へ罷出終日相勤め候。昼の内金屋半七より稻荷御祭礼に付きて、例年御屋敷中申し請け候て一献進上仕り候えども、女共産穢にてその儀なく候。押川六左衛門殿宿借用申し候て、いずれもへそばかり進め候由にて有馬有助へ万端頼み候。私事絵書所にて万右衛門殿、十郎左衛門殿、元春そば持参にて賞翫申し候。晚来万右衛門殿、十郎左衛門殿同道にて祇園林罷通られ候て清水へ参詣致し、ゆるゆる拝み奉り十二燈上げ候て御影申し受け音羽の瀧へ下り候て、帰路五条坂へ下り候て、建仁寺前罷通り四條河原にて腰掛け候てたばこ呑み候て、暫し涼み候処殊の外せわしく候て罷帰り、私宅へ直ちに万右衛門殿、十郎左衛門殿、木場源五兵衛殿入来にて吸物、酒出し候てゆるゆる咄申し候。

八日 曇天 小雨降

今朝御影堂淨阿弥入来。例年通り稻荷祭りにて候、御屋敷中いずれも申し請け候。幸い上京仕り居り候間十日には必ず参り候えと申し候。さて今日は兼て殿下へ召し呼ばれ候旨仰せ付けられ置き候。加茂の御祭りに付きて僧形御物忌のこと候間、今日御対顔、御暇遊ばされ下さるべきと

の御ことに候。さて打ち立ち候て堀氏、元春、権八は直ちに参られ候。

私事は廣橋左中弁殿より先日下され候物これあり候に付き、境町通り参り候て参上致し、村井氏より伝達の趣御礼申し上げ置き候て直ちに殿下へ参上仕り候。御門外にて元春、権八は待ち居り候、罷通り候て堀氏、村井氏居られ候て取り逢い候。村井氏より兼て申し聞かされ候渡部隠岐守殿へ近付きに罷なり候てゆるゆる咄申し候。廿四孝の二卷拝見させ申され候、段々の書き手にて御座候。追付関白様御帰館、御目見仰せ付けられ候。先ず堀氏出られ候て御目見御説これあり、次に私罷出候処、御説久々滞在にて苦勞なことじゃ、頼んだ絵共もみな見事に成就して、殊にこのたび御所の御用も首尾よく御機嫌の事にて手柄なことじゃ、今日は呼びて暇乞いをする万事めでたい、御口祝御座近く召し寄せられ頂戴仕り候て下り候時、上総介へ伝言をしよう。その元無事でいよいよ息災に暮らさるめでたい、この度探元呼び上げせたに何やかや用を頼んで首尾よく済んだ、長々滞留した。さて掛け物は當院御所御在位の時、御雑答の御宸筆じゃ、表具も粗末であるけれどもそのままやる、今は閑に寂しかろう、慰めにならば仕合せな、この趣心得て言え。さて須磨へ伝言も同じことじゃ、先年上つてあちこち見物もあつたほどに、探元このたび方々見たにつけて、定めて色々咄を聞かせるであろうよう言え、なおおなご共のが文をやる。さて先頃は焼物の無心を言うたに見事に出来て意外造作なことじゃ、よう言え。御座近く罷出候て承知仕り下り候処齋藤大藏殿廣蓋に入れ候て、堂上方御手跡拾五枚御目録あり、関白様御持ち扇一對拝領仰せ付けられ候由にて頂戴仕り候時御説、粗末な物じゃけれど兼て用意した。堀氏も最前右の通りに堂上方御手跡五枚拝領にて、御座末に詰め居られ候。追付御座下り候時御説随分息災に、さて最前の御

座に参り候て、追付御料理出候。

皿 鯛焼物 めし 汁 ふき

かけ汁 椎茸つぼみ

大のぞき 竹の子 小皿 朝漬大根 二品

とうふ

二汁 塩鴨 皿 すし のぞき青あえ

花肉

三扇子形 鯉の子づけ 猪口

同さしみ

御吸物 御取肴品々 御菓子 蓬まんじゅう 川たけ

木の葉かれい

御濃茶 かくふく

後くわし

相伴 仙石右門殿

近藤大膳太夫殿出られ候て、白銀拾枚、真綿拾把拝領仰せ付けらる由にて頂戴仕り候。元春、権八へ白銀五枚ずつ拝領仕り候。然る処に廣橋左中弁殿御参りにて、追付御退出故御近付きのことに候間罷出、御目に掛かり候様にとみなみな申され候故御廊下に罷出候て、御礼申し上げ候えば、この間は久々御逢い遊ばされず候。いよいよ無事にめでたく思し召され候。右膳殿より申され候は先日拝領物仕り候て探元ありがたき仕合せに存じ奉り候由申され候処、粗末な物遣わされ候にいんぎんなことに思し召され候。また近々御逢いなさるべき由仰せられ候。さてそれより御庭拝見願ひ申し候て、再び参上はからい難く候間拝見仰せ付けられたく申し候て、小雨降り候えども傘用い候て右膳殿、右衛門殿、木村内膳

殿同道にて御庭相廻り申し候。春日の御社へ参詣仕り候、奥に御小座敷

これあり、御庭にやり水浅く驚目候景にて候。御座に先年私御前において書き候墨絵山水の二枚屏風これあり候。御襖は白張りにて候、これもこのたび絵御書かせ候わんと思ほし召され候ども、余り事多く候て御遠慮遊され候由みなみな物語りにて候。上は亭にて今出川通りにて候。

満君様御逝去以後最前の亭をかくの如く御作り替えに仰せ付けられ候由、折々春宮様にも御入りこれありたる由みなみな物語りにて候。御花鳥芍薬最中にて花共少々切り候ていずれもよりくれ申され候。左候て直ちに御暇申し上げ候て退出仕り候。夜入る時分迄佐々木源兵衛殿、木場源五兵衛殿、能勢五郎兵衛殿、山下十郎左衛門殿祝に入来にて候。尤も堀氏もこの人々より前に入来にて候。吸物、酒出し候て数刻に及び候。

但近衛様において菊池左殿出られ候て、兼て頼み上げ置き申し候鳥丸光栄卿詠歌の儀八條殿へ頼み奉り候処、八條殿御祖母は六条殿と申し候て、当今様御幼年より守り奉らず御人にて、当時御病氣にて禁中御下り候て八條殿にて御養生候。毎日殿下より御左右承るに人進められ候に、昨日光栄卿より探元も追付出京これあるべくと思し召されし候故、詠歌御書き下され候由にて遣わされ候由にて御使い相渡され候由にて頂戴仕り候。右の通りに御取り分けの節御失念もこれなくありがたく存じ奉り候由空殿へ申し上げ置き候。御好みの絵の儀は委曲畏れ奉り候由申し候。

前夜夜入る前村井氏、加治氏より入道様へ進められ候御掛け物箱一つ、村井戸沢へ箱二つ、文箱一つ、私へ下され候十枚、元春、権八へ下され候五枚ずつ持たせられ候。使い足軽中村茂兵衛酒振る舞い候て請け取り遣わし候。

九日 晴天

今朝越後屋市左衛門一刻来たり候。追付仕舞い候て絵書所へ罷出候。准后様御好みの臨写物相調え候て、九つ時分より河原の御所へ参上仕り候て青山内記殿へ取り逢い候て申し上げ候。この品々進上とは申し上げ難く候、各迄差し上げ申し候。

合羽達磨の写し、東坡の竹一枚、梅道人竹二枚、宣文の写し、唐竹三尺、唐絵筆四管、唐筆福祿寿と名の箱入一管、

右の品々の儀披露候処、珍しき物共進上仕り御満悦思し召し上げられ候。みなみな近日御試み遊ばさるべきと御樂しみに思し召し上げ候。さて臨写仕り候絵共に逐一銘書き誰が筆と仕り候。印迄も仕り候て差し上ぐべく候。今日御対面も仰せ付けらるべく候えども少し御支えこれあらせられ候故、尚近日今一度御逢い遊ばさるべく候由承知仕り候て御暇仕り候。直ちに近衛様へ参上仕り候て昨日の御礼豊重ありがたく存じ奉り候、御取りなし頼み候由加治掃部殿へ申し上げ置き候。藤本宅へ直ちに見舞い候処元春、権八事も御所へ御礼に参上仕り候て立ち寄り居り候て、昼飯調え候由母子申し候故一刻報恩寺の地衝き見物に参り候。様々の幟を立て老若男女色々の衣裳にて衣着け候。厄も交り、高き棚に木遣り語る者三人、幣持てはやすあり、群集おびただし。門前は則織屋なり、機見物するに色々の絞柄、見るが内に現る。裏の方も表にして織るなり、いと珍らしき見物なり。それより桜の御所不断光院見廻りて、ここにも春日の社おわします。社の脇に腰懸あり、御所の御門番の人来たれり、今日社の御屋根損じたる修補に来たれるという。古き藤の木にまといたるあり。やがて藤本へ帰りぬるに様々もてなしぬ。それより瀬尾新次郎に見廻り候えば、今日は糸方御用にて堀氏その外付役の方へ入来と承り置き

候故言い入り置き候て、源九郎に門迄見廻り候て中嶋利兵衛へ立ち寄り暫し咄候。餞別持参申し候、閑談に及ぶなり。追付立ち候て田中甲治へ言い入れ置き候。暮れ時分帰宿申し候。今日角之倉與市殿より餞別として木曾氷一箱、小高二束遣わされ候えども、私留守にて堀氏の役人因分早太請け取り置き候由にて夜入り申し聞き候。右の使い井之内孫市と申す人にて候由。

十日 晴天

今朝仕舞い候て絵書所へ罷出絵に取り掛かり候て、准后様御用相勤め候。さて兼約により御影堂浄阿弥より今日は稲荷の祭りにて候、祭祀に例年申し請け候。幸い私事も上京申し候間、参り候えと申し候故堀氏同道にて参り候。山下七郎左衛門殿、佐々木源兵衛殿、押川六左衛門殿、有馬休兵衛殿、松元勘兵衛殿、木場源五兵衛殿、能勢五郎兵衛殿、同権八元春並びに相伴藤本彦右衛門、丹後屋長門にて候。先ず当日の祭祀にて候とて赤飯出し候て酒、吸物にて候。追付太鼓、笛はやし候故出候て見物申し候処御影堂内にねり入り候。真先に白丁着け候者、紗綾にて張り候額を持ち候。次に子供色々の装束にて参り候。太鼓、鉦、笛にてはやし候。この御影堂の近所の者共に候故各うちを廻り候由。さて料理の間もこれあるべく候間歩行然るべきとて浄阿弥並びに彦右衛門、長門案内にて、五條の橋を渡りて大仏開帳の所へ参り候てかの方この方見物申し候て、三國小十郎とて鞠の曲仕り候者これあり、見物申し候。さてさて驚目申し候。それより七条河原へ通り候て、御影堂裏門口へ入り候て浄阿弥宅へ帰り候。追付料理出候、別けて馳走にて候。豊国と申す座敷最前より参り居り候。段々浄瑠璃歌にて楽しみ申し候。夜入り候てみなみな同道致し罷帰り候。

但 本堂にて一遍上人鏡の御影並びに如仏の御影、王阿の御影拝み奉り候。この境内寺十四間あり、如庵はみな尼、如仏の遺跡なりと。

十一日 雨天

今朝七条より一水房入来にて候。高城の高證寺住持当時遊行上人に隨身にて在京候えども、御国元へ拠んどころなく下り候間同道頼みにて候。追付絵書所へ罷出候て准后様御用成就致し候て、八つ前河原の御所へ参上仕り候て御側衆津田内道殿へ取り逢い候て、昨日は御餞別として中川右馬権頭殿御書き付けにて御目録頂戴仕りありがたき合せに存じ奉り候。かつまた名印仰せ付けられ候絵共成就仕り差し上げ申し候。御取りなし頼み存じ申し候由申し上げ候て御暇仕るべき由申し候えども、暫し控え候様にと押して申され候故控え居り候処、則申し上げられ候えは聞き召し上げられ御誕に、昨日は御餞別として軽き品々下され候処御礼として参上仕り、入念候ことに思し召し上げられ候。また名印も仕り候てみなみな絵共持参仕り候て御遊びに思し召し上げられ候。発足も十八日に治定仕り候由今日は御院参りの筈に候処、御頭痛氣にあらせられ候て御断り仰せ上げられ候故御対顔遊ばされず候。その内御暇乞いに参上仕るべく候。御見せ遊ばされ候絵共もこれあり、御対面も遊ばさるべく候間左様に承り候様にと承知仕り候。御礼申し上げ候て退出仕り、直ちに角之倉與市殿宅へ御見舞い申し入れ候て御使い殊に御餞別下され候。御礼申し入れ置き候。それより白河遍詢律師へ御見舞い申し入れ、この間御餞別下され、かつまた何かと在京中御懇ろ下され候段御礼申し候て、暫く閑話を得候て、暮れ前御屋敷へ罷帰り申し候。

十二日 雨天

今朝宿屋長七来たり候て暫し咄候。追付仕舞い候て絵書所へ罷出絵に取

り掛かり候処、村井右膳殿見舞いにて堀氏書院へ通り居られ候故出合
申し候。万右衛門殿より馳走にて候。私へ饒別として白木茶箱道具入
付き、茶祝の白鈴棗に入れ候て、外に御所の茶師尾崎より新茶到来の由
にて相添え給い候。また元春、権八へ堂上方御寄せ合書の色紙給
い候。閑談を得候て追付帰られ候。今日は終日堀氏頼みの絵書き候故硯
水これあり終日書き申し候。夜入り候て元春来たり候。追付堀氏入来に
てゆるゆる咄にて帰られ候。

十三日 雨天

今朝越後屋市左衛門来たり候。追付絵書所へ罷出候て終日相勤め候。四
条大雲院よりこの間三幅対の絵頼み候、染筆致し遣わし候。礼として使
僧寺中の源隆院、則佐土原の御寺にて候由挽茶、金子目録贈られ候。今
日迄に絵相仕舞い候。帰りに押川六左衛門殿、佐々木源兵衛殿、有馬休
兵衛殿よりそば切り振る舞いにて候、馳走に及び候。夜入り増田半助絵
頼み置き候故取りに来たり候。

十四日 雨天

今日終日絵書所諸道具仕舞い申し候。

十五日 雨天

今日、宅にて仕舞い方。

十六日 晴天

河原御所にて内記殿へ申し上げ御誼、采女殿にて仰せ下され候。これよ
り先相知らず候。

十七日 曇

今朝堀氏より朝飯振る舞いにて候。罷帰り候て仕舞い方相済み。能勢五
郎兵衛殿より夕飯振る舞いにて、川元市左衛門殿より吸物、御酒振る舞

われ候て、直ちに堀氏へ暇乞いに参り候て直ちに罷立ち候。堀氏御門迄
見送りにて候。稲荷の茶屋に休み候て神前へ参詣仕り候て巡見致し下向
申し候時、元春、権八追付伏見へ参り候て、徳田清左衛門殿その外大勢
江戸より罷上がり候衆多く着にて候。赤井清兵衛方へ休み候て諸事相仕
舞い、夜入る前京橋へ参り候て船に乗り付け候。能勢五郎兵衛殿大坂へ
御用これあり、同船にて候。高城の高證寺も同船にて菱刈屋せき同船申
し候。夜入り滞りなく候て、大坂御城の上の方にて夜明け候。

十九日 晴天

直に大野清右衛門殿方へ申し入れ置き候。迫水一挙殿御向こう上がりの
ため居られ候て逢い申し候。昼過ぎより清右衛門殿より馳走にて、亭に
て御酒振る舞われ候、下の座にて料理にて候。一挙殿、元春、権八、平
瀬甚左衛門殿、有川与左衛門殿同席にて候。夜入り中衆、彦右衛門、三
之助浄瑠璃、三味線にて馳走に及び候。

廿日 晴天

今朝仕舞い候て、一挙殿同道致し新斎橋並びに一丁目古物見物。笹屋方
へ立ち寄り茶漬振る舞い候。晚来大野氏へ見舞い候て一挙殿、土師録右
衛門殿、有川与左衛門殿参会申し候。九つ時分罷帰り候。

廿一日 晴天

今日九つ半時分より大野清右衛門殿事、薩摩屋次郎兵衛方へ申し請け候
に付き、誘引これあり罷越し候。迫水一挙老、平瀬甚右衛門殿、有川与
左衛門殿へ取り持ちとして中島屋吉右衛門参り候。書院、

一 掛け物立物 古画周文と申し伝え候由、紫野古和尚の両讃あり

一 次の間横物 北条時子の歌並びに言葉書きあり

一 大床花入れ金の物 杜若夏菊

一 見物 手鑑二帖並びに手鑑、屏風一双

一 掛け物 探幽三幅対

一 一休筆達磨の絵、自讃あり

献立

皿 かきたい もずく わさび ゆのは 猪口 いり酒

めし汁 つみ入れ 岩たけ なすび

小皿 あさ漬 平皿 山の芋 牛蒡

引碗 塩かも 三葉

茶碗 白うり ごまむた 大皿 鯛の焼き物

茶菓子 何やら川たけ

濃茶 この三白

狂言 八句連歌 和田山兵作

清水 石田六郎兵衛 今参 喜渡伊左衛門

好 奈須の語り 喜渡伊左衛門

三味線引き女参り候。左候て段々馳走に及び、深更に罷帰り候。

廿二日 曇天

今日追水一挙老と同道にて、豊竹越前屋あやつり見物に道頓堀へ参り候。棧敷借り候て得と見物申し候。富田屋と申し候、この方御立ち入れの茶屋へ頼み候て食物等持ち来たり候。

廿三日 晴天

今日大野氏より扱んどころなく絵書き所望にて候。かの方において書き候。一挙老、有川与左衛門殿夜入り候て、岩井五郎右衛門殿来たり候。馳走に及び候。深更迄咄候。

廿四日 雨天

今日四つ過ぎ時分より一挙老、有川与左衛門殿同道にて天満宮口へ参り候。古道具、植木等見物申し候。直ちに神明へ参り候て麦飯申し付け候てゆるゆる休み候。帰路中島屋吉左衛門方へ立ち寄り候て風呂に入り候て馳走に及び候。倅宇左衛門三味線歌にて酒進め申し候。

廿五日 雨天

今日一挙老へ見舞い候て咄申し候。そば切り馳走にて候、有川与右衛門殿も入来候。降られ候て平瀬甚左衛門殿入来候。暫し咄され候。私事ゆるゆる罷在り候て罷帰り候。今朝江戸より御先立ちの人数参着に候。夜入り大野氏へ咄候。参り候一挙老、平瀬甚左衛門殿、有川与左衛門殿馳走に及び候て、深更に罷帰り候。

廿六日 雨天

今日一挙老見舞い候てゆるゆる咄候て、直ちに船賦の儀に付きて大野氏へ見舞い候処一挙老も居られ候て夕飯下され候。夜咄にても有川与左衛門殿入来候。祝井五郎左衛門来られ候。深更に及び候。

廿七日 雨天

一挙老一刻入来候。五郎右衛門事も一刻来たり候、うとの芦頼み置き候処よき便これあり、頼み置き候由申し候。飯下され候てこのたびの同船衆市来勤左衛門殿見舞い候えば吸物、酒出され候て閑話を得候。やがて大野氏へ酒入り候処に一挙老、有川与左衛門殿咄にてゆるゆる咄在り候。

廿八日 雨天

今朝雨降り候て追付晴れ候。乗船相催し候て大野氏へ暇乞いに参り候えば一挙老、与左衛門殿、権八吸物、酒出され候て餞別候。やがて罷帰り候て夕飯下され、船に乗り候節大野氏、一挙老、有川氏、有馬善兵衛殿御門外迄暇乞いに出来候。道頓堀口に本船罷在り候て乗り付け候。同

船の人数は市来勘左衛門殿、川上七郎次郎殿、新納喜左衛門殿、高崎惣四郎殿、大迫栄雪殿、元春、権八にて候。船は伊勢丸と申し候て、船間島の船にて候。

廿九日 曇天 午後属晴

今日仕舞い候て同船中申し合わせ住吉へ参詣申し候。浜道参り候て神前へゆるゆる拜見申し候。直ちに天王寺見物、それより新清水湯瀬にて料理申し付け休息申し候。七つ前打ち立ち候て帰路道頓堀筋通り候て船に罷帰り候。

晦日 曇天

今朝未明に大坂出船申し候。七つ時分兵庫に着き申し候。

五月朔日 曇天

今朝夜明け候て兵庫出船申し候。終日そろそろ参り候。夜中風よく候て走り候。

二日 晴天

今朝なわ島の瀬戸と申す所に参り候。類船見え候。讃州屋島（八島）八栗（矢くり）の嶽など眼前にて候。夜入る前より順風にて、夜明け候て今治の瀬戸に参り掛かり候。

三日 晴天

今日四つ過ぎ今治へ着き候て陸に上がり、同船中申し合わせ酒店へ遊び申し候。やがて順風故乗船申し候。類船ここにて追い付き候。また陸にて在宿申し候に標結び候。女共これあり、見物致し申し候。

四日 曇天

今朝夜明け時分より順風にて走り候末、灘終日参り候て雨氣罷りなり候故三田尻へ七つ過ぎに入り候。類船も同前にて候。去る廿八日大阪出船

の船も同前にて入り候。

五日 曇天

今朝夜明け候て出船、下之関通り候て陸のもつれに着船申し候。塩田源左衛門殿、伊集院弥八郎殿など乗り申され候。船などここに居り候。昼時分着き申し候。追付雨降り出し候。

六日 曇天

今日迄も滞船申し候。時々雨降り申し候。終夜止まず候。

七日 晴天

今日迄も滞船、同前申し合わせ候て上がり候て一献にて候。ゆるゆる休息申し候。やがて罷帰り申し候。伊集院弥八郎殿見舞にて暫し咄候て帰られ候。

八日 曇天

今日迄も滞船申し候。

九日 曇天

今日も滞船申し候。川上七郎次郎殿、高橋惣四郎殿事今朝小倉筋通り路にて登らせられ候。御国元へ書状頼み候て遣わし候。陸へ湯入りに上がり候。喜左衛門殿、栄雪老、権八同道申し候。夕方より観世音尊像書き奉り候。また順風これなきにより、當島の八幡宮へ日和申し候処、神託十二日十五日の出船、着岸は十八日九日とこれあり候由。

十日 晴天

今朝夜明け候て順風故出船申し候。直ちに走り候て樺島（かば島）の前にて夜入り候。今日の海路九十一里にて候。

十一日 晴天

阿久根の前にて夜明け候。追付川口に参り候処風風候て繰り入れ、向田

へ八つ過ぎに、義平宿へ着き申し候。

おわりに

この日記を読んでみたいと思ったのは、大分昔のことであったが、江戸時代の文章を読みやすくできないかと考えていた。読み出してみるとなかなか意味の通らない箇所も多く、地名や人名など仮名書きのまま残した部分も多いし、意味不明のままの所も多い。

今後木村探元に関心を持たれる方々の手によって、更にわかりやすく、詳しく解明されることを望んでいる。

日記の解説については、鹿児島県歴史資料センター黎明館史料編纂委員堂満幸子氏、指宿白水館学芸員深港恭子氏に原稿に目を通していただくなどお世話になった。謝辞を申し上げます。

(本館 学芸課長)